



裾野市の防災について

令和6年6月8日
裾野市危機管理課

【説明の趣旨】

裾野市の区長、自主防会長をはじめ防災に携わる皆さん方に対し、裾野市の防災、特に、コミュニティ（共助）活動の必要性等、中でも避難所の開設・運営に関する事項等を説明して概要を理解していただく。

また、富士山火山防災、特に、7/20（土）実施予定の避難図上演習の概要について説明して、演習への参加をお願いするもの。

説明項目

★ 後の流れを考慮し、説明順序を逆にします！

No	項目
1	富士山火山防災について (7/20 (土) 避難図上演習の概要)
2	コミュニティ (共助) 活動の必要性について (避難所開設・運営の体制等)
3	質疑応答

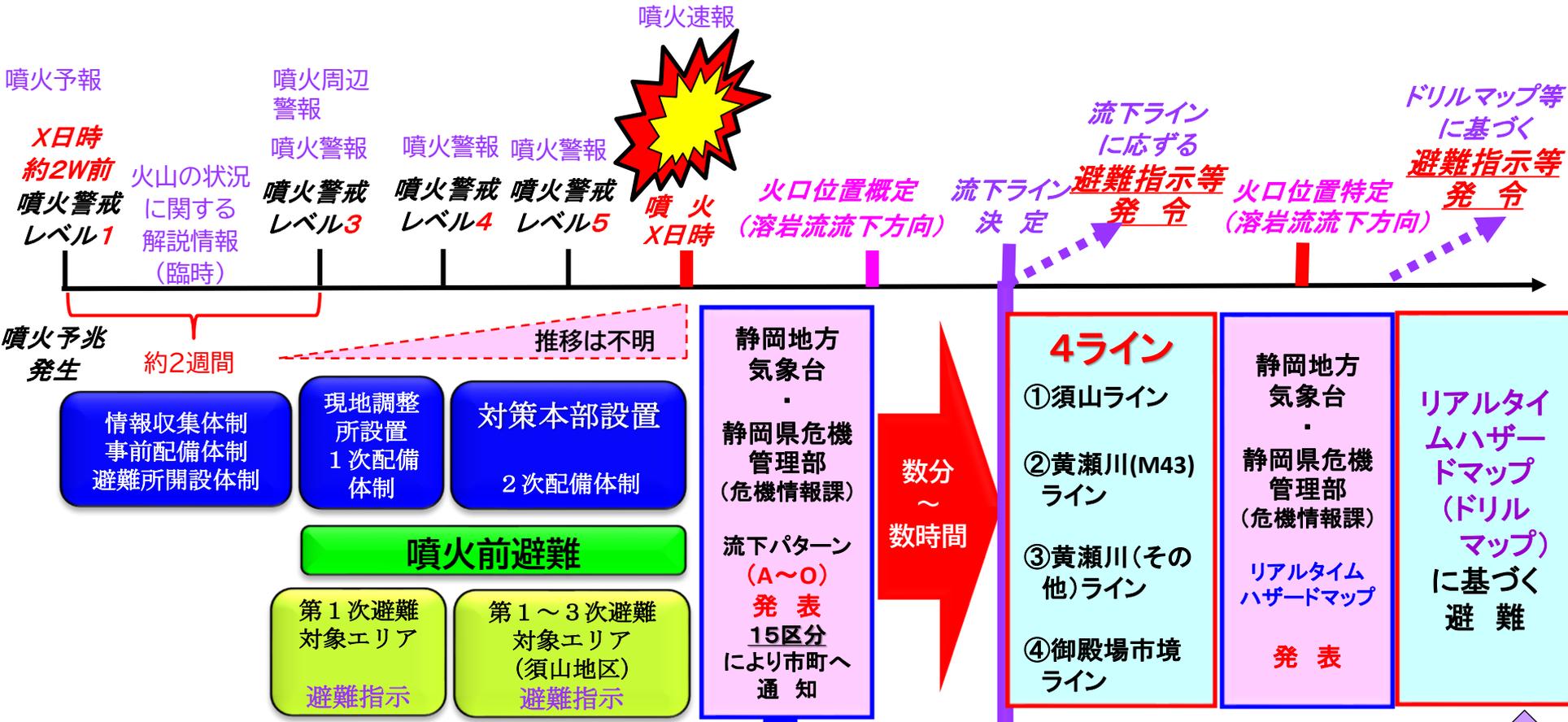
富士山火山防災（ハザードマップ改定～避難基本計画改定）の経過

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全般	3/26 富士山火山防災対策協議会 ハザードマップ改定公表	3/30 中間報告	3/29 改定計画決議	計画発効	
富士山火山防災対策協議会 (広域避難計画検討委員会)					
静岡県	協議会幹事会		県意見交換・方針会議 県地域防災計画改定	8月 計画発簡	広域避難に関する修正深化 (具体化)
近隣市町		・富士山ネットワーク会議 ・2市1町防災協議会 ・東部相互防災協定	広域避難検討協定等見直し		
裾野市	協議会1号会員の参加	6/28 10/17 #1 住民説明会 市避難訓練(十里木)	4月 8/31 11/21 11/27 #2 防災マップ配布 須山中防災教育 自助・共助 須山区長・十里木別荘管理事務所等との調整 須山小防災教育 市避難訓練(須山)	5/2 9～11月12/3 #3 引き渡し訓練 小中防災授業 市避難訓練(須山噴火前完成) 避難計画改定	計画発効 7/20 役員訓練会 (区長・自主防会長) 住民説明 避難訓練
市独自シミュレーション 噴火前避難検討 地域防災(広域避難)計画改定					
噴火前部位のみ改定 噴火後避難検討					

須山地区全域の噴火前避難（3カ年計画の訓練・検証）



富士山火山噴火のタイムテーブル



【県流下パターンとの整合】

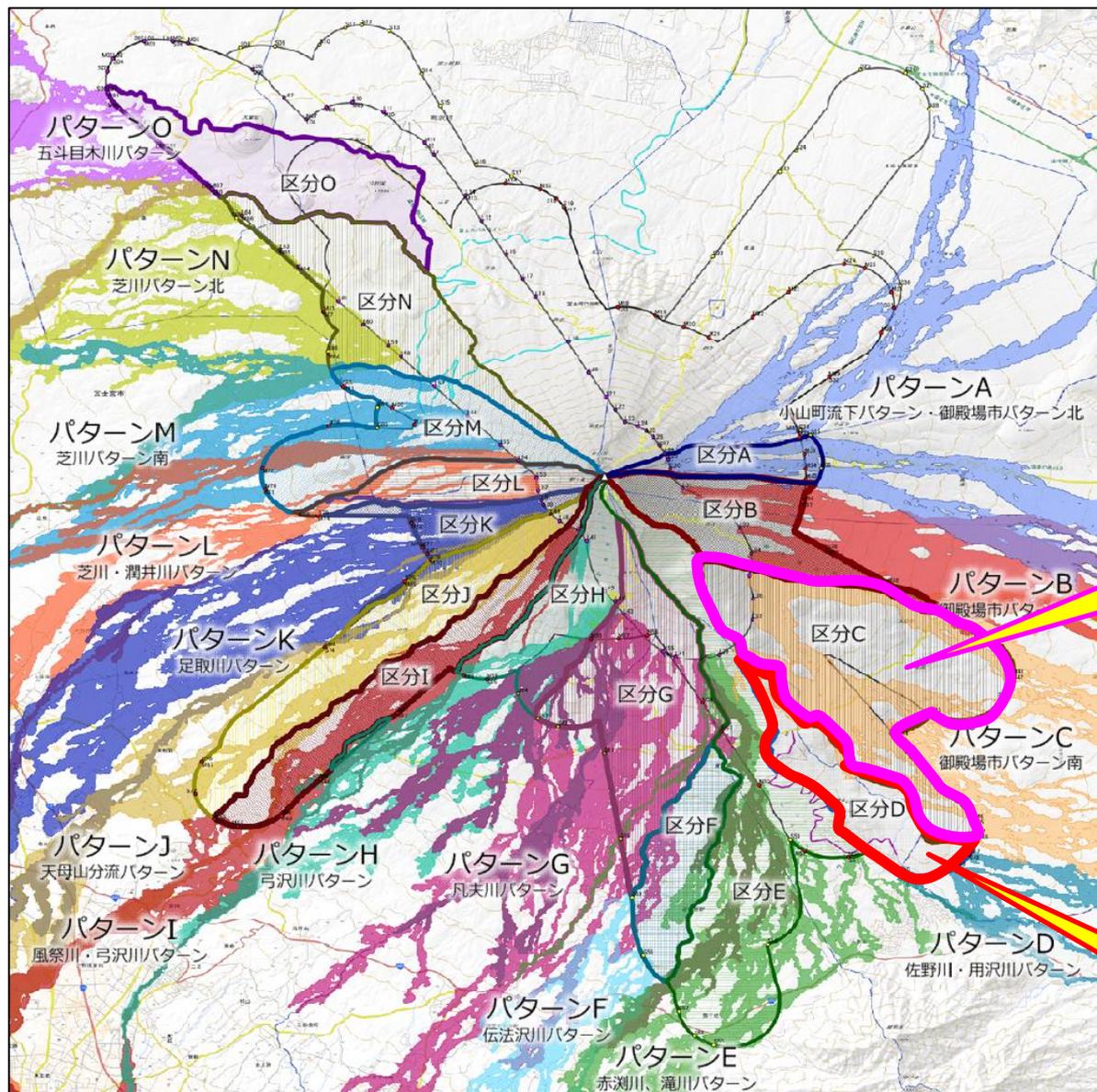


【市流下ラインの決定】



市流下ラインと県流下パターンとの整合

県流下パターンとの整合



**パターンC
の細分化を要望中**

(分類要素)

- 分水嶺(水系): 地形学
- 観測体制 : 気象台

**パターンDは、
須山ライン**

裾野市に影響のある溶岩流の流下ライン

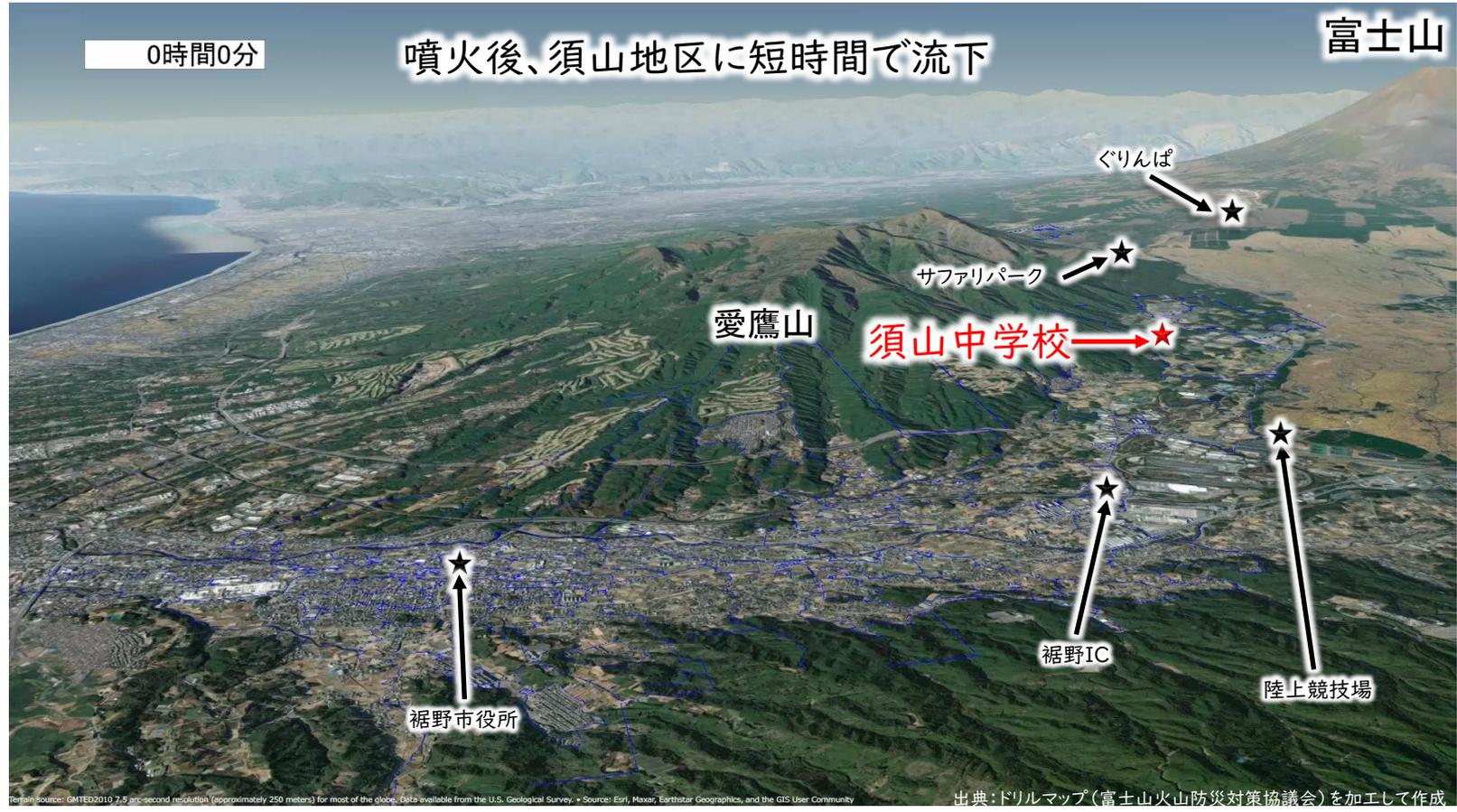


**裾野市の溶岩流
流下方向は、
大きく3方向**



裾野市に影響のある溶岩流の流下ライン(須山ライン)

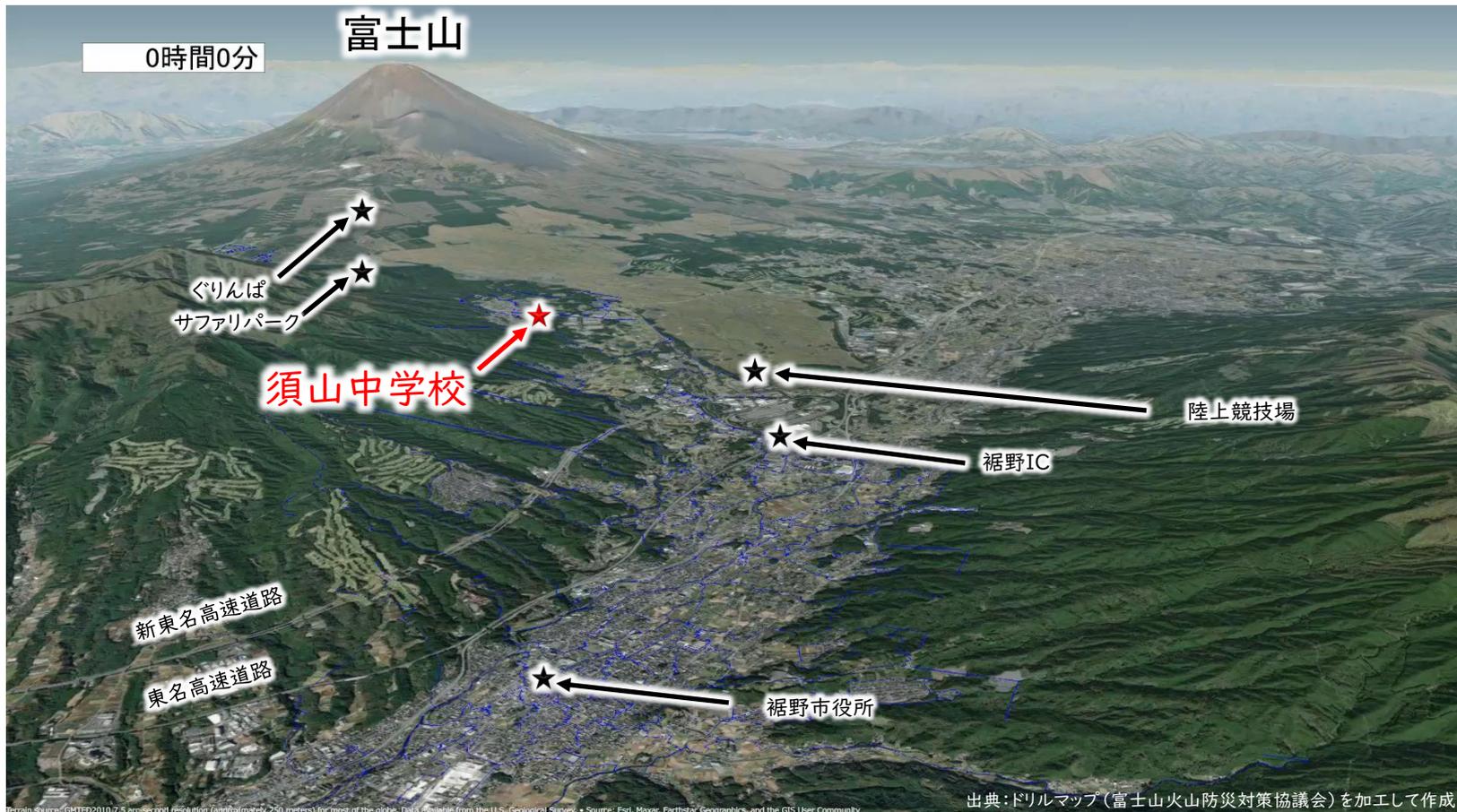
溶岩流可視化3D(M48): 須山地区に流入あり



【トヨタ未来創生センター提供受】

裾野市に影響のある溶岩流の流下ライン(黄瀬川M43ライン)

溶岩流可視化3D(M43): 須山地区に流入なし

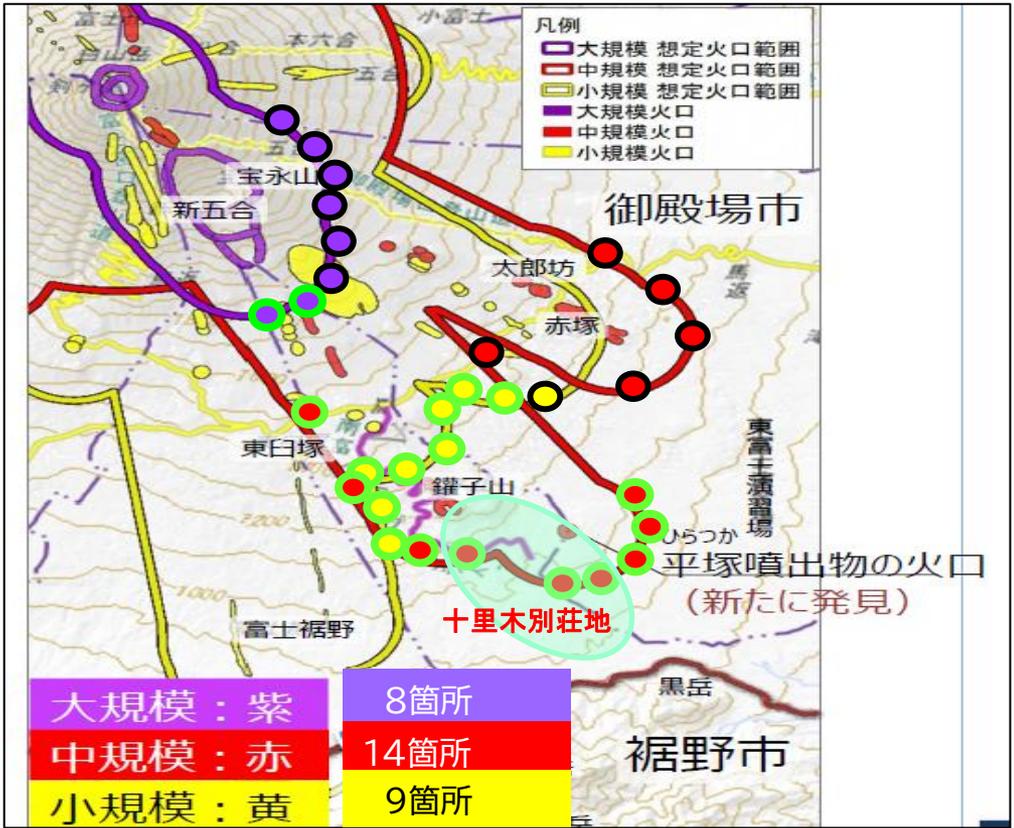
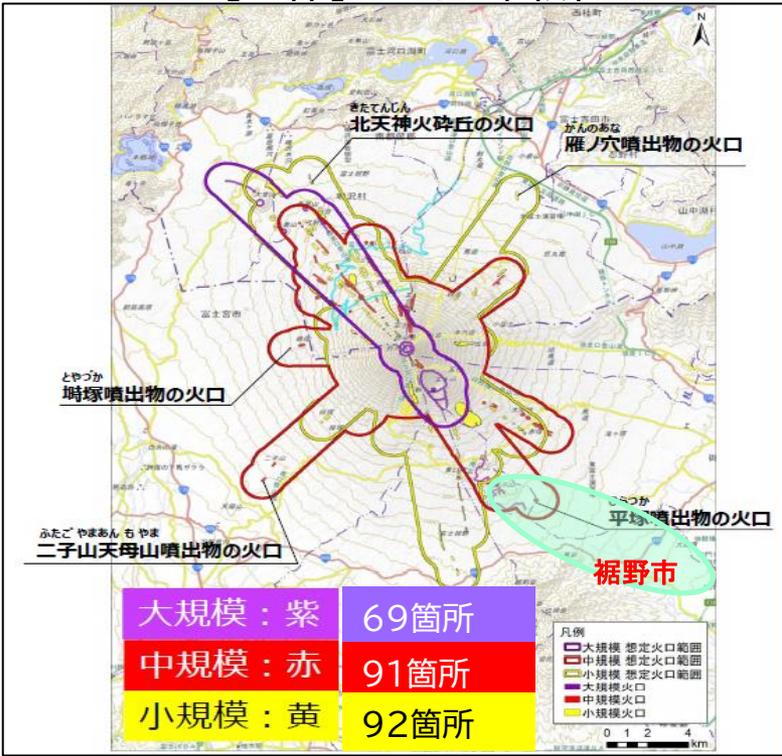


【トヨタ未来創生センター提供受】

裾野市に影響ある想定火口位置等

【全体】 252箇所

【裾野市影響火口】 31箇所 【須山地区影響火口】 19箇所(枠線)



★ 富士山が噴火した場合、裾野市への溶岩流の流下の確率は約1/8 (31/252)
 ⇒ 須山地区：噴火活動が始まり、警戒レベルが上がれば動かないといけない。

① 火口位置(流下方向) ② 流下(到達)時間
 グループング(クラスタリング)して、4つのラインに区分

噴火後避難における溶岩流の流下ライン等に応じた避難

須山ライン (対象7コ: 小規模×3、中規模×4)



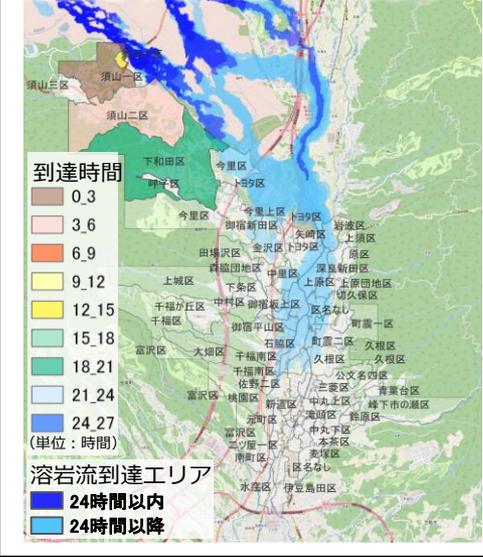
- ◆避難対象 25コ区・12,245人
- ◆流下の特徴
 - ◇河川沿い迅速流下 (市南端迄約12時間)
 - ◇市街地の多く流下想定外
 - ◇市役所・福祉保健会館ともに健在
- 避難の考え方等
 - 河川沿いに避難地域を絞り、「一時退避」実施後に、流下状況に応じた「市内避難」を実施
 - 避難対応(対象)地域を絞る。(川左右300m)
 - 1~2日目以降、細部指示

黄瀬川 (M43) ライン (対象1コ: 中規模×1)★特質ライン



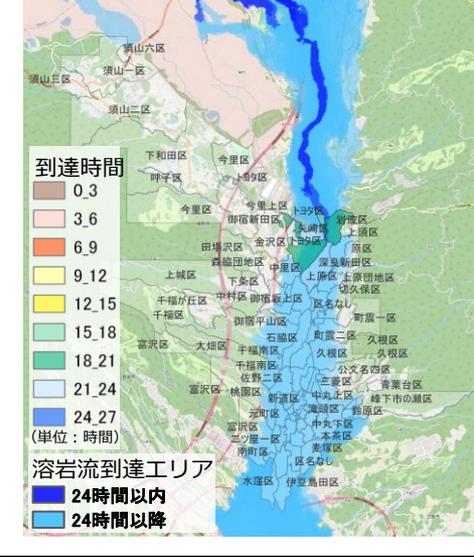
- ◆避難対象 42コ区・20,774人
- ◆流下の特徴
 - ◇御殿場方向から河川沿いに早く流下(市南端迄約2日)で流下し、約3.5日で市街地の広範囲に流下する。
 - ◇文化センター以北は、河川沿い流下(川左右300m絞る)
 - ◇市役所・福祉保健会館ともに移転が必要
- 避難の考え方等
 - 当初、河川沿いに避難地域を絞り「市内避難」しつつ、並行的に多数「広域避難」を実施
 - 県・隣接市町との連携

御殿場市境ライン (対象4コ: 小規模×2、中規模×2)



- ◆避難対象 29コ区・約12,200人
- ◆流下の特徴
 - ◇市街地への流下時間が遅い。(住宅地流下約4日、市街地流下時に、噴火位置はほぼ確定)
 - ◇市街南側半分流下想定外
 - ◇市役所は健在、福祉保健会館は移転必要
- 避難の考え方等
 - 溶岩流の流れ(リアルタイムハザードマップ等)に応じ、「市内避難」を追求
 - ※ 必要により市外、広域避難

黄瀬川 (その他) ライン (対象12コ: 小規模×1、中規模×4・大規模×7)

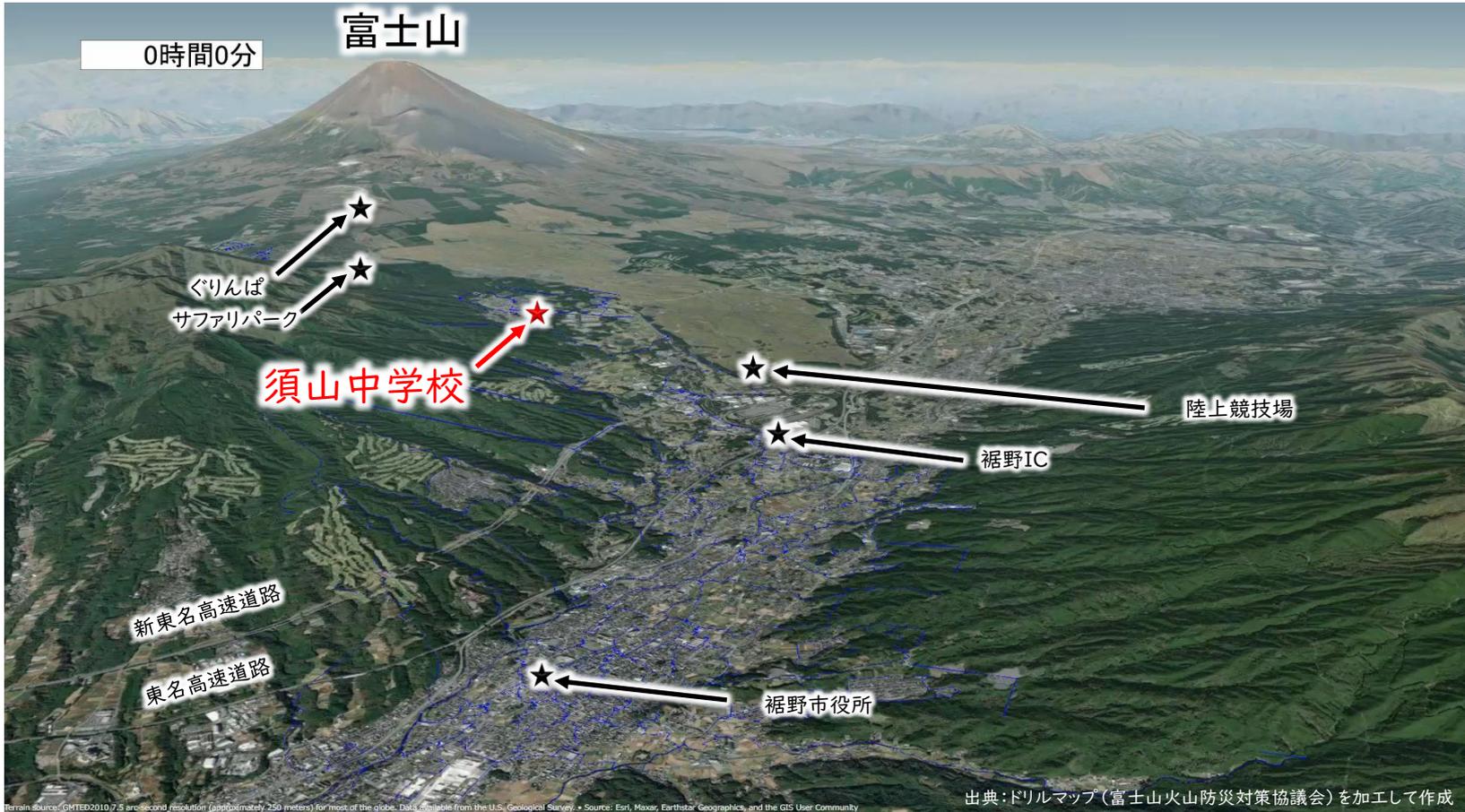


- ◆避難対象 (※今後、溶岩流流下面積比率で対象者数を絞ることを検討) 67コ区・40,428人
- ◆流下の特徴
 - ◇御殿場方向から、河川沿いにゆっくり流下(市街地流下時に、噴火位置はほぼ確定)
 - ◇ラインによっては、市街地の多く(ほぼ全域)に流下
 - ◇市役所・福祉保健会館ともに移転が必要
- 避難の考え方等
 - 溶岩流の流れ(リアルタイムハザードマップ等)に応じ「広域避難」を段階的に実施
 - ※県・隣接市町との連携

出典：(地図)OpenStreetMap contributors、(溶岩流、行政区分類)デジタル裾野を元にドリルマップ(富士山火山防災対策協議会)を加工して作成
 (注)一度の噴火で、ここに塗られた範囲の全てに溶岩流の危険が生じるわけではない。

裾野市に影響のある溶岩流の流下ライン(黄瀬川M43ライン)

溶岩流可視化3D(M43): 須山地区に流入なし



【トヨタ未来創生センター提供受】

★特質ライン

7/20(土)の図上演習で行うライン

自治組織毎の避難要領(須山地区)

区名 須山地区	溶岩流の流下ライン				備考 (想定火口該当数、 最短到達時間)
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
須山1区	噴火前避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				11コ(L38、M45～49、S46～50) 約40分(M48)
須山2区	噴火前避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				11コ(M45～50、S46～50) 約60分(M48)
須山3区	噴火前避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				5コ(M48～50、S49・50) 約40分(M48)
須山4区	噴火前避難 噴火警戒レベル3で高齢者等は、 須山研修センター等 へ避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				8コ(L39、M50～53、S51～53) 約15分(M51)
須山6区	噴火前避難 噴火警戒レベル4で 東中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				4コ(L38、M45・47、S46)※ 孤立 約14時間(S46)
(十里木別荘) ※ 自治組織なし。	噴火前避難 噴火警戒レベル3で第1次避難対象エリアは住民全員、第2次避難対象エリアは高齢者等が 須山研修センター等 へ避難 噴火警戒レベル4で 深良中 へ避難 ※ 大規模流下時等、状況により市外避難				※ 避難対象エリア 1次: 想定火口位置 2次: 大噴石飛来等

自治組織毎の避難要領を整理(富岡地区-①)

区名	溶岩流の流下ライン				備考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
富岡地区					
千福区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1小)	要支援:位置概定・1h(富1小) 一般:噴火5h(富1小)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	20コ(L32～38、M40～46、S48～50) 約6時間(M49)
御宿平山区	流下想定外	要支援:位置概定・1h(富1小) 一般:噴火5h(富1小)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	14コ(L32～38、M40～46) 約9時間(M43)
御宿上谷区	流下想定外	要支援:位置概定・1h(富岡支所) 一般:位置概定・3h(一時退避: 近傍地区集会所→当時の状況)	要支援:噴火22h(富岡支所) 一般:噴火24h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	15コ(L32～38、M40～46、S44) 約7時間(M43)
御宿新田区	流下想定外	要支援:位置概定・1h(富岡支所) 一般:位置概定・3h(一時退避: 近傍地区集会所→当時の状況)	要支援:位置概定・12h(深良中) 一般:噴火16h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	15コ(L32～38、M40～46、S44) 約6時間(M43)
御宿坂上区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富中)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	19コ(L32～38、M40～42、44～49、S48～50) 約5時間(M49)
御宿入谷区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1小)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	19コ(L32～38、M40～42、44～49、S48～50) 約5時間(M49)
上城区	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外
中村区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1幼)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	6コ(M47～49、S48～50) 約6時間(M49)
下条区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1小)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	6コ(M47～49、S48～50) 約6時間(M49)
中里区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富中)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	8コ(L32・33、M47～49、S48～50) 約4時間(M49)
田場沢区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富中)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	6コ(M47～49、S48～50) 約4時間(M49)
森脇団地区	要支援:噴火同時(富岡コミセン) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富中)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	1コ(S48) 約27時間(S48)

自治組織毎の避難要領を整理(富岡地区-②)

区名	溶岩流の流下ライン				備考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
富岡地区					
上ヶ田区	未流下	要支援:位置概定・1h(富岡支所) 一般:位置概定・3h(一時退避: 近傍地区集会所→当時の状況)	要支援:噴火22h(富岡支所) 一般:噴火24h(一時退避:近傍 地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	15コ(L32～38、M40 ～46、S44) 約7時間(M43)
金沢区	要支援:噴火同時(富岡支所) 一般:位置概定・1h(一時退避: 近傍地区集会所→富1幼稚園)	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	11コ(L32～35、M45・ 47～49、S48～50) 約4時間(M49)
今里区	要支援:噴火同時(富岡支所) 一般:位置概定・1h(一時退避: 運動公園→(時の栖))	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	要支援:噴火16h(富岡支所) 一般:噴火24h(富岡支所) ※ 県道24号以东約100名)	8コ(M45～49、S48～ 50) 約3時間(M48)
今里上区	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外
下和田区	要支援:噴火前(東中) 一般:位置概定・1h(一時退避: 時の栖→(時の栖))	流下想定外	要支援:噴火前避難(東中) 一般: 未流下	要支援:噴火前避難(東中) 一般:位置概定・15h(富2小) ※ 県道24号以东約100名	9コ(M45～50、S48～ 50) 約2時間(M49)
呼子区	要支援:噴火同時(富岡支所) 一般:位置概定・1h(一時退避: 時の栖→(時の栖))	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	6コ(M47～49、S48～ 50) 約3時間(M48)
矢崎区	流下想定外	流下想定外	要支援:噴火16h(深良中) 一般:噴火18h(一時退避:近傍 地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	15コ(L32～38、M40 ～46、S44) 約6時間(M43)
トヨタ区	流下想定外	流下想定外	要支援: なし。 一般:位置概定・10h(一時退 避:近傍地区集会所→当時の状 況)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	15コ(L32～38、M40 ～46、S44) 約6時間(M43)
御宿台区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	流下想定外	1コ(L34) 約760時間(L34)
千福が丘区	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外
千福南区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍 地区集会所→富1小)	要支援:噴火6h(富1小) 一般:噴火8h(富1小)	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リア ルタイムハザードマップ 等に応じた避難	18コ(L32～38、M40・41・ 43・44・46～49、S48～50) 約8時間(M49)

自治組織毎の避難要領を整理(深良地区一①)

区名	溶岩流の流下ライン				備考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
深良地区					
町震1区	流下想定外	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火10h(深良支所)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32~38、M40・41・43~46) 約15時間(M43)
町震2区	流下想定外	要支援:位置概定・1h(深良中) 一般:噴火5h(深良中)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	14コ(L32~38、M40~46) 約10時間(M43)
舞台団地区	流下想定外	要支援:位置概定・1h(富1小) 一般:噴火5h(富1小)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	14コ(L32~38、M40~46) 約10時間(M43)
南堀区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約515時間(L34)
和市区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32~38、M40~42・44~46) 約72時間(M44)
遠道原区	流下想定外	要支援:位置概定・1h(富岡支所) 一般:位置概定・3h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況による。)	要支援:噴火22h(深良中) 一般:噴火24h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	14コ(L32~38、M40~46) 約8時間(M43)
切久保区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32~38、M40~42・44~46) 約82時間(L36)
上原区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32~38、M40~42・44~46) 約55時間(M44)
上原団地区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	1コ(L34) 約394時間(L34)

自治組織毎の避難要領を整理(深良地区一②)

区名	溶岩流の流下ライン				備考
	深良地区	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	
原区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	<u>流下想定外</u>	6コ(L32~35・38、M40) 約188時間(M40)
上須区	<u>流下想定外</u>	<u>流下想定外</u>	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	13コ(L32~38、M40~42・44~46) 約61時間(M44)
深良新田区	<u>流下想定外</u>	<u>要支援</u> :位置概定・1h(深良中) <u>一般</u> :位置概定・3h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況による。)	<u>要支援</u> :噴火16h(深良中) <u>一般</u> :噴火18h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	15コ(L32~38、M40~46、S44) 約6時間(M43)
岩波区	<u>流下想定外</u>	<u>要支援</u> :位置概定・1h(深良中) <u>一般</u> :位置概定・3h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況による。)	<u>要支援</u> :位置概定・12h(深良中) <u>一般</u> :噴火16h(一時退避:近傍地区集会所→当時の状況)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	15コ(L32~38、M40~46、S44) 約6時間(M43)

自治組織毎の避難要領を整理(西地区-①)

区名 西地区	溶岩流の流下ライン				備考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
石脇区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→深良中)	要支援:位置概定・1h(富1小) 一般:噴火5h(富1小・富岡中)(2)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	20コ(L32~38、M40~49、S48~50) 約7時間(M49)
佐野上宿区	流下想定外	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	12コ(L32~38、M40・41・43・44・46) 約15時間(M43)
佐野本宿区	流下想定外	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	12コ(L32~38、M40・41・43・44・46) 約18時間(M43)
佐野若狭区	流下想定外	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	11コ(L32~38、M40・41・43・44) 約23時間(M43)
佐野2区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→深良小・深良支所・裾野高(3))	要支援:噴火6h(富1小) 一般:噴火8h(東小・向田小)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	18コ(L32~38、M40・41・43・44・46~49、S48~50) 約7時間(M49)
大畑区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→裾野高)	要支援:噴火6h(富1小) 一般:噴火8h(東小)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	18コ(L32~38、M40・41・43・44・47~49、S48~50) 約7時間(M49)
上町区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→深良小・生涯学S・深良幼稚園(3))	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・43・44・46~49、S48~50) 約8時間(M49)
緑町区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M41・43・44) 約36時間(M43)
元町区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→生涯学S・市民体育館(2))	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(※ 広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・43・44・47~49、S48~50) 約8時間(M49)

自治組織毎の避難要領を整理(西地区-②)

区名	溶岩流の流下ライン				備考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
西地区					
桃園区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→裾野高・市民体育館・東西公民館(3))	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(※広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・43・44・47~49、S48~50) 約8時間(M49)
富沢区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→南小・東小(2))	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・43・44・47~49、S48~50) 約9時間(M49)
南町区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→いずみ幼稚園)	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	15コ(L32~38、M41・43・44・47~49、S49・50) 約10時間(M49)
二ツ屋1区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→裾野高)	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	16コ(L32~38、M41・43・44・47~49、S48~50) 約9時間(M49)
二ツ屋2区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→東小)	要支援:噴火12h(東小) 一般:噴火15h(※広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	17コ(L32~38、M40・41・43・44・47~49、S48~50) 約9時間(M49)
堰原区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→向田小)	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	16コ(L32~38、M41・43・44・47~49、S48~50) 約10時間(M49)
伊豆島田区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M41・43・44) 約45時間(M43)
水窪区	要支援:位置概定・1h(東小) 一般:噴火5h(一時退避:近傍地区集会所→東小・向田小(2))	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	流下想定外	15コ(L32~38、M41・43・44・47~49、S49・50) 約10時間(M49)

自治組織毎の避難要領を整理(東地区-①)

区名 東地区	溶岩流の流下ライン				備考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
久根区	流下想定外	要支援:噴火9h(東小) 一般:噴火12h(東小)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	★ 火口位置特定後、リアルタイムハザードマップ等に応じた避難	12コ(L32~38、M40・41・43・44・46) 約15時間(M43)
公文名1区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M40・41・43) 約32時間(M43)
公文名2区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	7コ(L32~36・38、M43) 約48時間(M43)
公文名3区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35・38) 約310時間(L38)
公文名4区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35・38) 約247時間(L38)
公文名5区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	流下想定外
稻荷アルミ区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35・38) 約248時間(L38)
中丸上区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約42時間(M43)
中丸中区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約54時間(M43)
中丸下区	流下想定外	要支援:噴火24h以降(東小) 一般:噴火48h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35、M43) 約74時間(M43)
天理町区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約56時間(M43)
滝頭区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	4コ(L32~35) 約443時間(L35)
本茶区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約877時間(L33)
道上区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約888時間(L33)

自治組織毎の避難要領を整理(東地区-②)

区名 東地区	溶岩流の流下ライン				備考
	須山ライン	黄瀬川M43ライン	黄瀬川その他ライン	御殿場市境ライン	
峰下市の瀬区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約926時間(L33)
鈴原区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約927時間(L33)
茶畑団地区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約1,017時間(L33)
青葉台区	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外	流下想定外
和泉区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	3コ(L32~34) 約790時間(L34)
富士見台区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約70時間(M43)
麦塚区	流下想定外	流下想定外	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	5コ(L32~35・38) 約342時間(L38)
新道区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	9コ(L32~38、M41・43) 約38時間(M43)
東町区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	6コ(L32~35・38、M43) 約52時間(M43)
本通り区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	9コ(L32~38、M41・43) 約61時間(M43)
日の出元町区	流下想定外	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M41・43・44) 約63時間(M43)
本村上中区	要支援:噴火24h以降(東小) 一般:噴火24h以降(一時退避:近傍地区集会所→南児童館)	要支援:噴火18h以降(東小) 一般:噴火22h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	12コ(L32~38、M41・43・44、S49・50) 約29時間(M43)
本村下区	流下想定外	要支援:噴火24h以降(東小) 一般:噴火48h以降(※広域避難)	★ 火口位置特定後リアルタイムハザードマップに応じた避難	流下想定外	10コ(L32~38、M41・43・44) 約95時間(M43)

【配布資料】

噴火後の懸念事項（降灰）

(避難時の懸念事項)

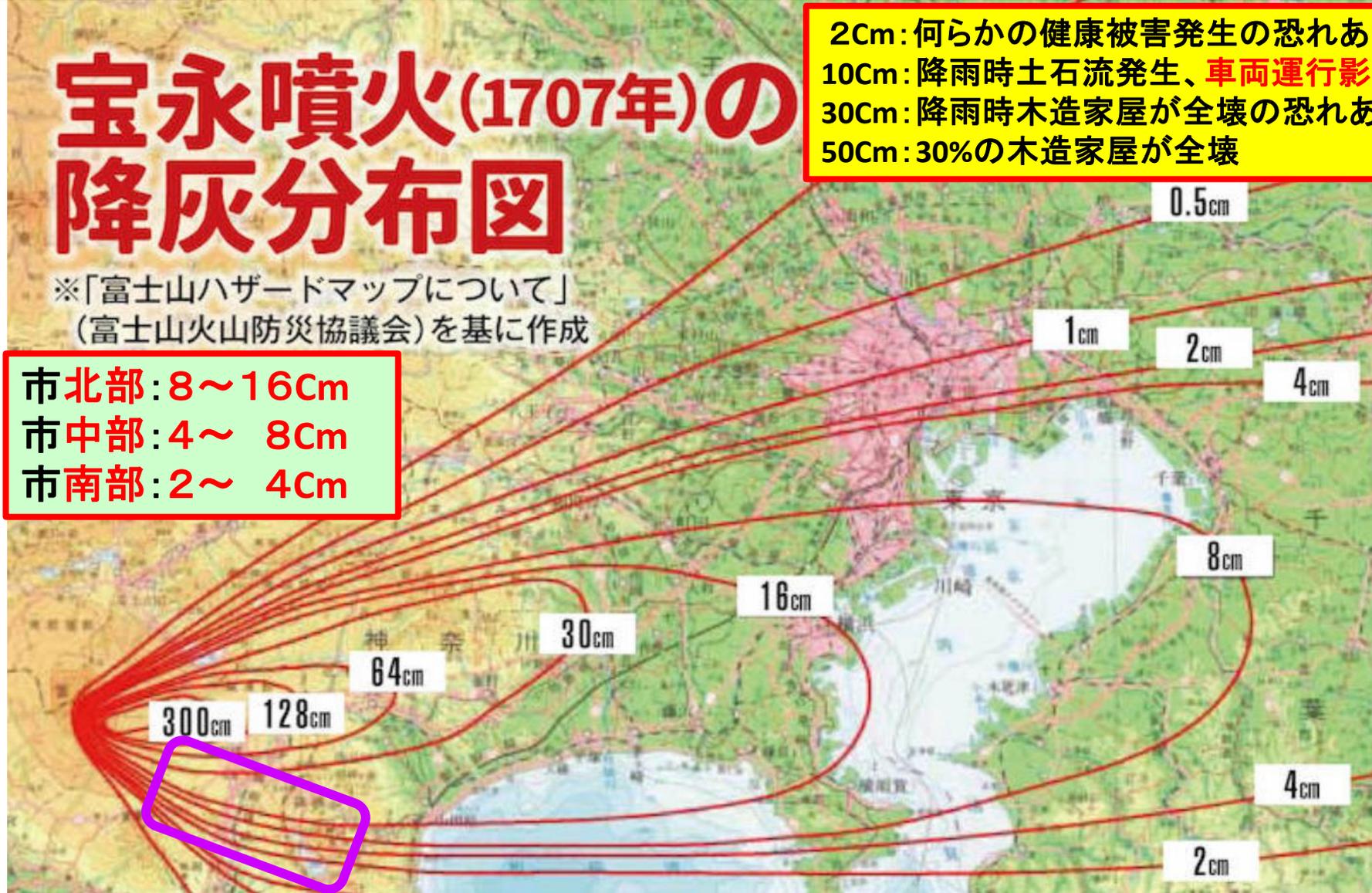
★ 新たなハザードマップは、降灰シミュレーション等を行っていないため、平成16年度版を再掲 ※ 裾野市の可能性マップ最大値30~50cm

宝永噴火(1707年)の降灰分布図

※「富士山ハザードマップについて」(富士山火山防災協議会)を基に作成

2cm: 何らかの健康被害発生の恐れあり。
10cm: 降雨時土石流発生、車両運行影響大
30cm: 降雨時木造家屋が全壊の恐れあり。
50cm: 30%の木造家屋が全壊

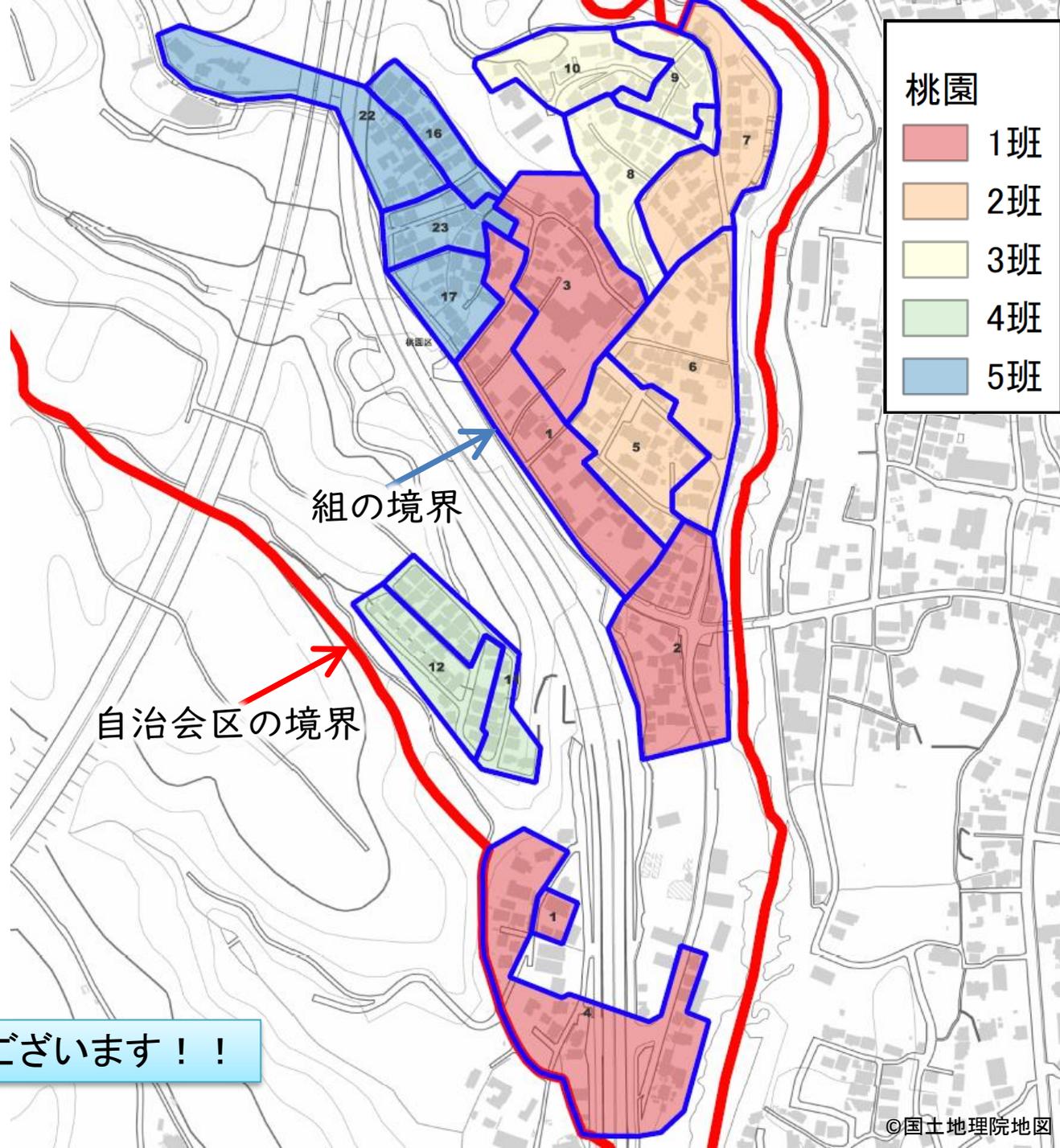
市北部: 8~16cm
市中部: 4~8cm
市南部: 2~4cm



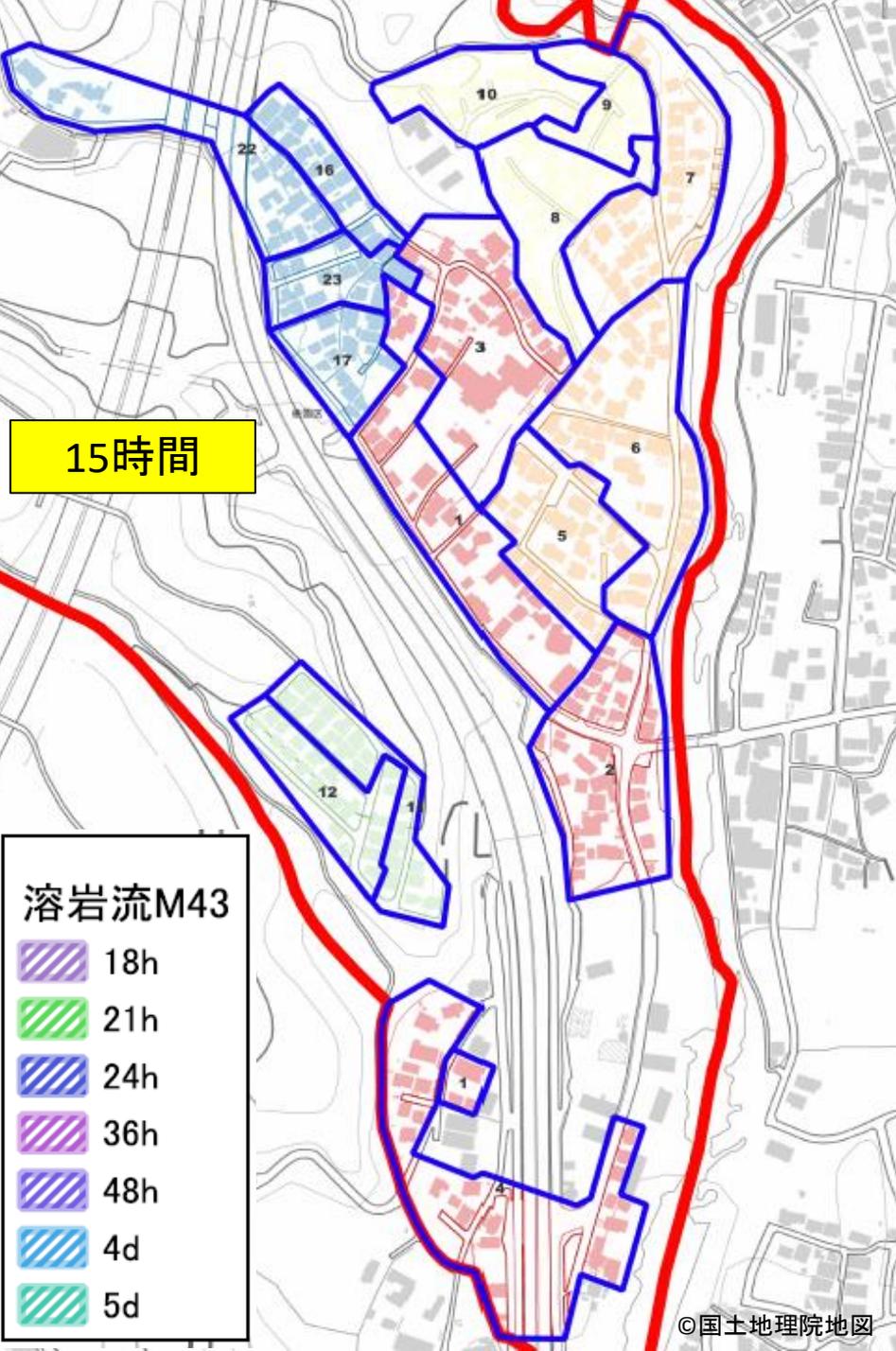
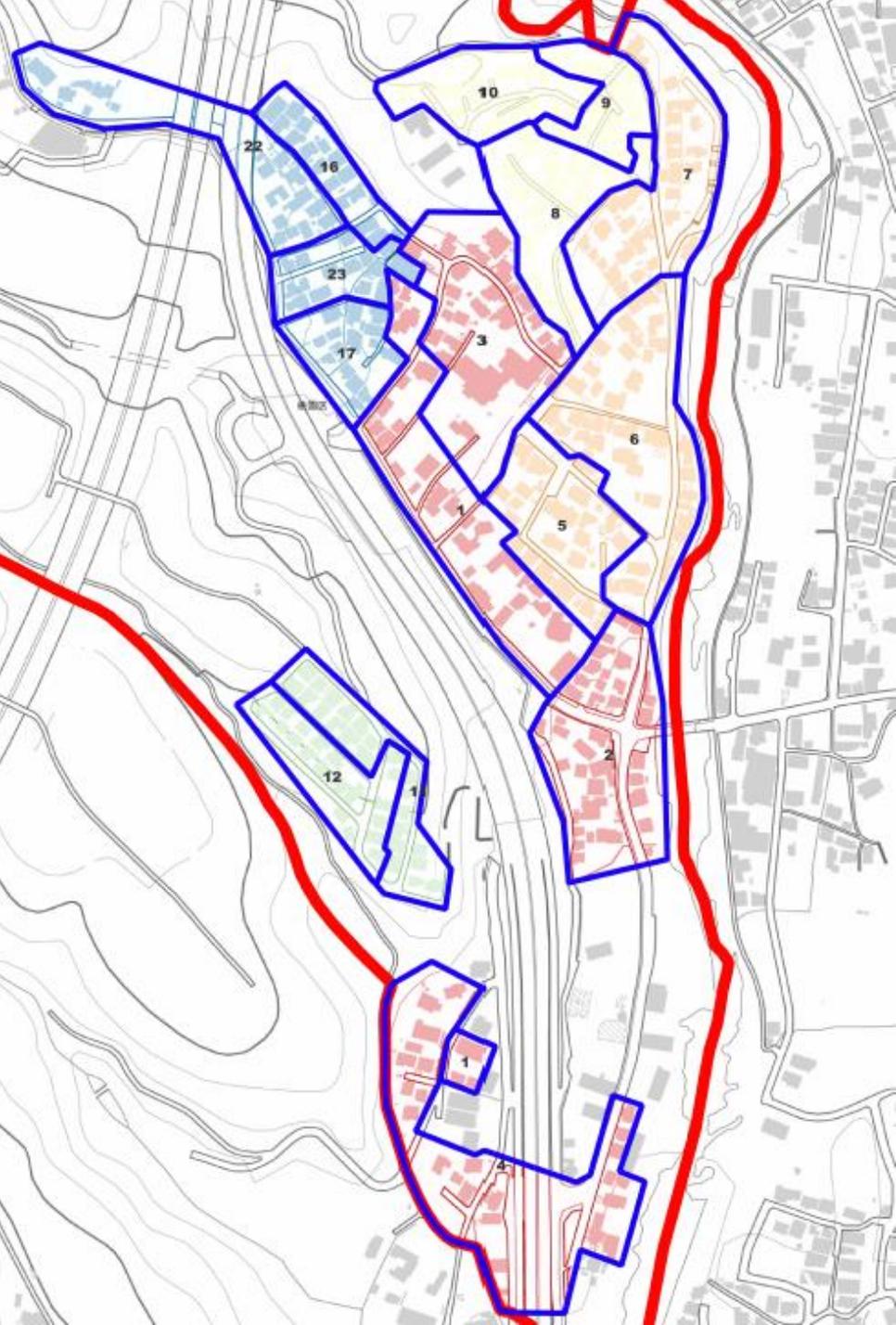
令和6年度富士山火山避難図上演習実施の大綱

目的	<p>裾野市自治組織(自主防災会)役員等及び防災関係防災機関等を含む災害対策本部要員に対し、富士山火山避難に関する図上演習を実施して、<u>噴火前～噴火後</u>における時系列に応じた<u>避難行動等の流れ</u>、特に、自治組織(コミュニティ)に関しては、<u>区民の避難要領(自助)及び区防災活動(共助)</u>、行政等(公助)に関しては、<u>市民の避難に必要な統制・指示及び避難支援等</u>について<u>イメージアップさせる</u>。</p> <p>また、自治組織(コミュニティ)の避難行動に必要な<u>各行政区内の境界</u>等について、努めて<u>デジタル等</u>を活用して<u>整備・明確化</u>するとともに、<u>地区防災計画作成・深化</u>の更なる奨励を図る。</p>		
日時	令和6年7月20日(土) 08:30～12:00	場所	市民文化センター 多目的ホール(周辺)
重点項目	<p>1 裾野市自治組織(自主防災会)毎の各区特性に応じた<u>避難要領の理解</u>及び<u>問題点等の把握</u></p> <p>2 災害対策本部(市役所及び防災関係機関等)の<u>噴火活動対応に関する流れの理解・確認</u>及び<u>連携の強化</u></p> <p>(1) 噴火現象、特に、溶岩流の流下状況に応じた適宜の<u>噴火情報等の共有</u>及び<u>避難情報等の発令・周知</u></p> <p>(2) 計画改定時に明らかになった<u>課題事項等</u>に関する調整・検討による具体化等</p> <p>3 演習準備間から演習当日を通じた各行政区内の<u>細分化(班・組・最寄り等境界の明確化)</u>及び<u>デジタル化</u>等の整備 ★ 行政区の細分化・デジタル化 トヨタミラ創生センター佐多様から説明</p>		
訓練想定	<p>マグマ型噴火(噴火前避難～噴火後避難)</p> <p>※ <u>黄瀬川M43ラインをメイン</u>に実施し、他ライン、特に、<u>須山ライン</u>は部分的な特徴等を説明</p>		

(例) 桃園区

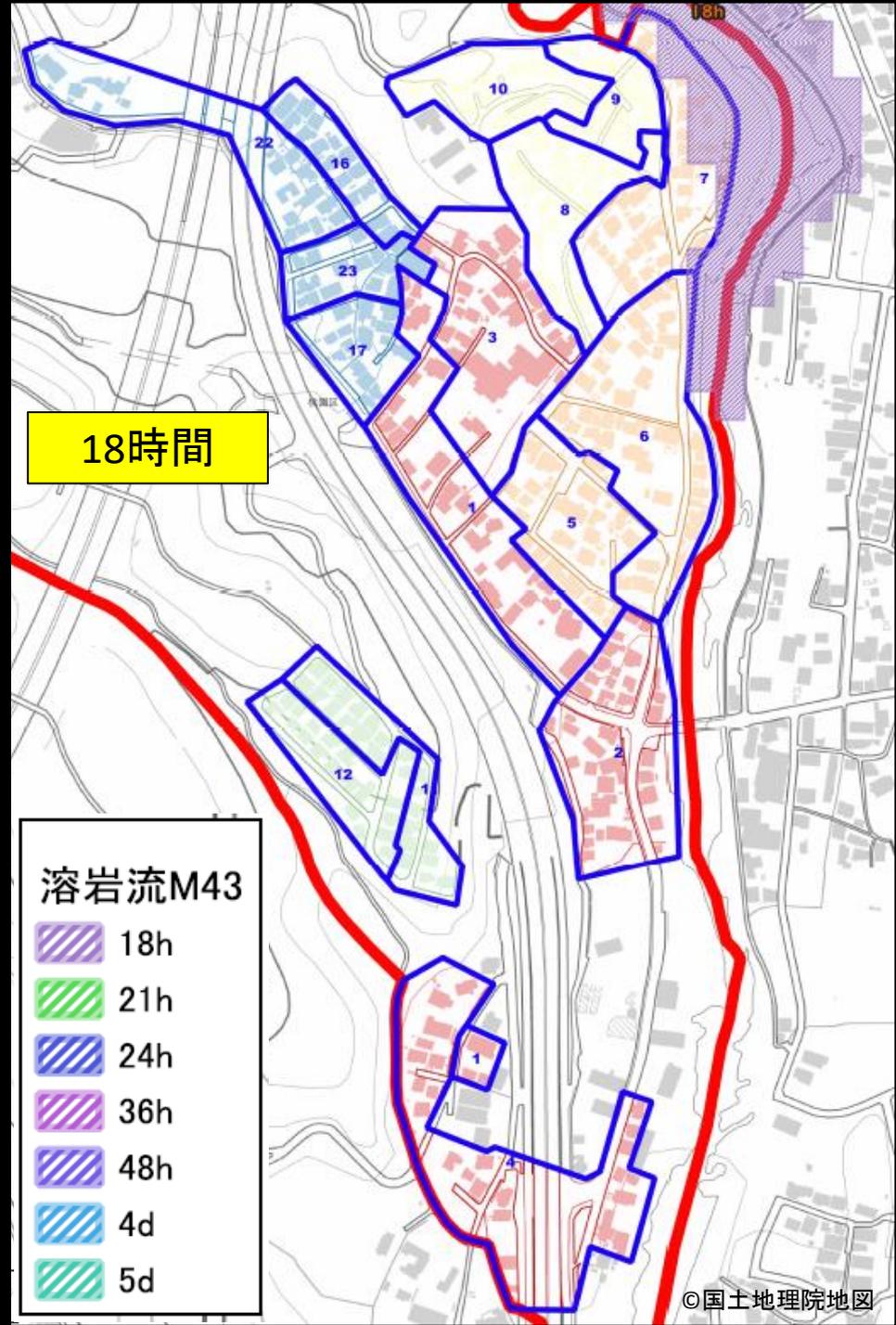
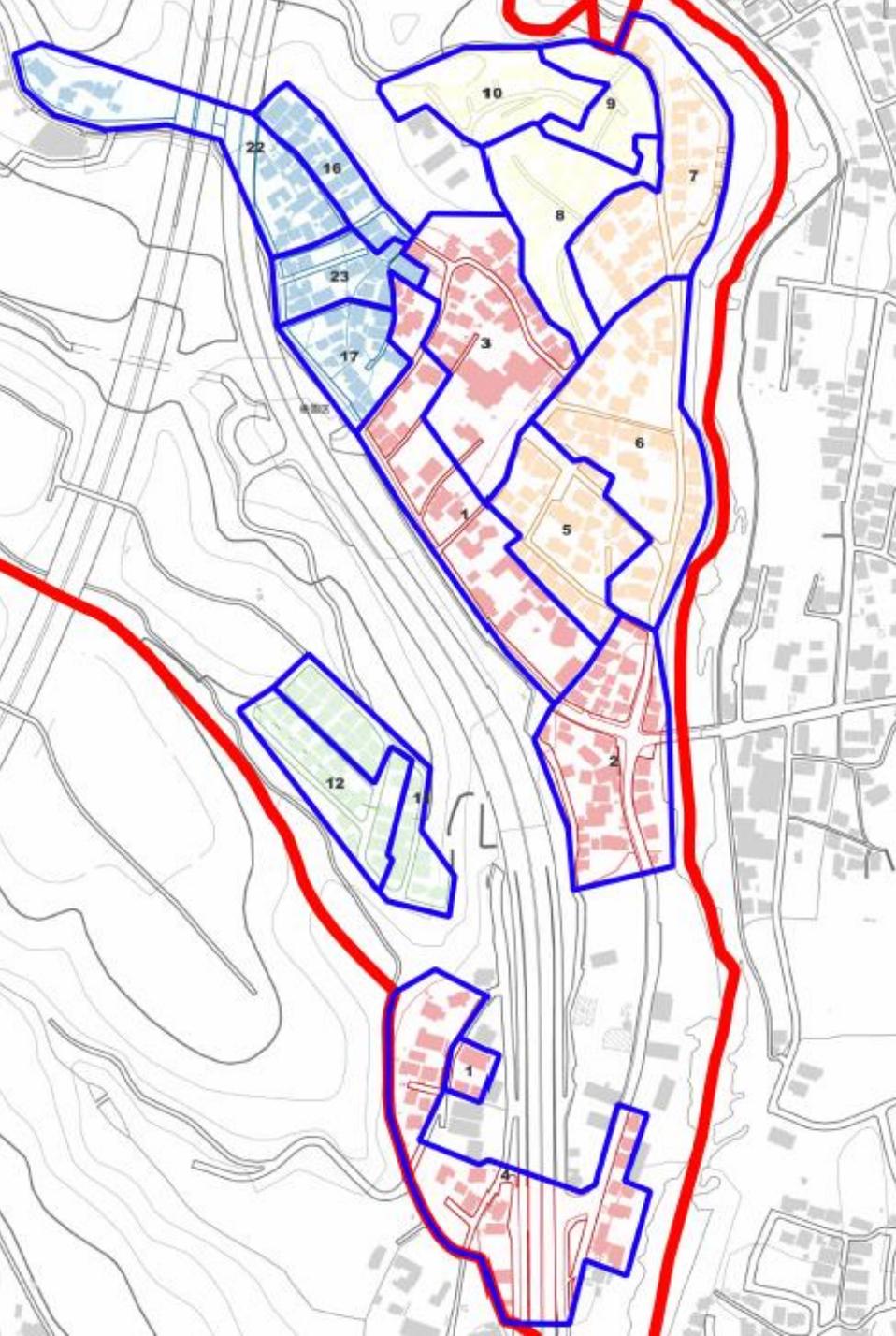


ご協力ありがとうございます！！



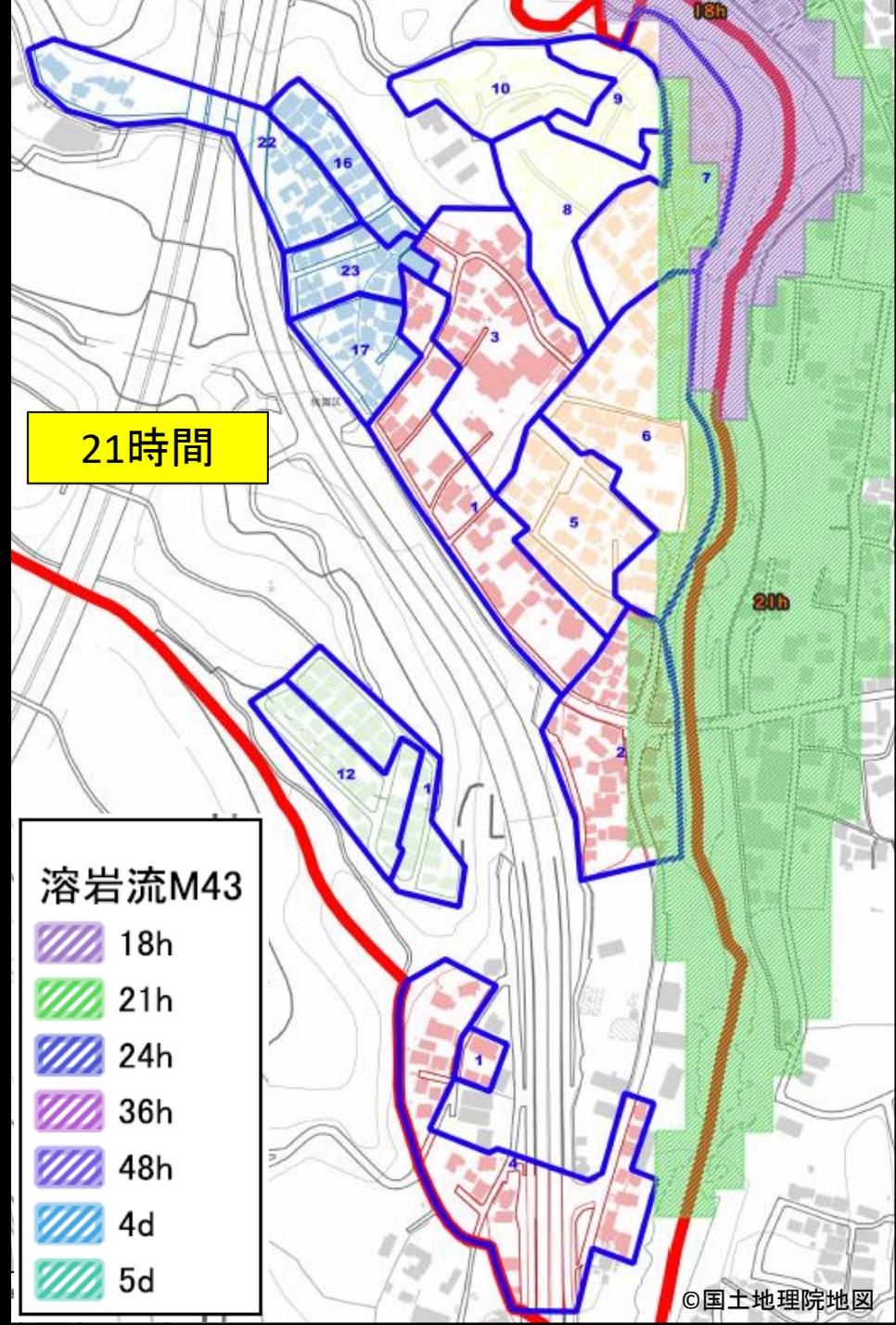
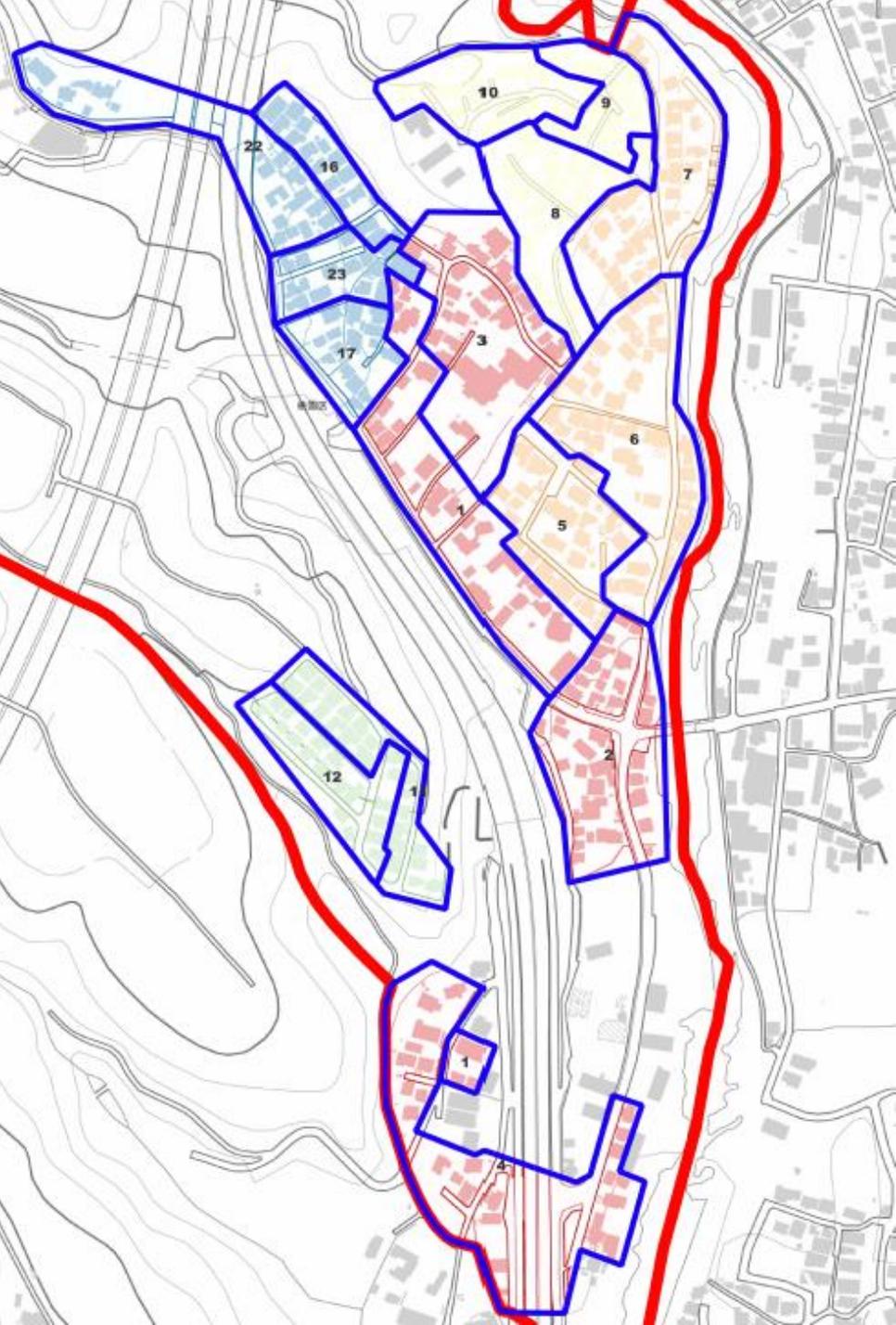
15時間





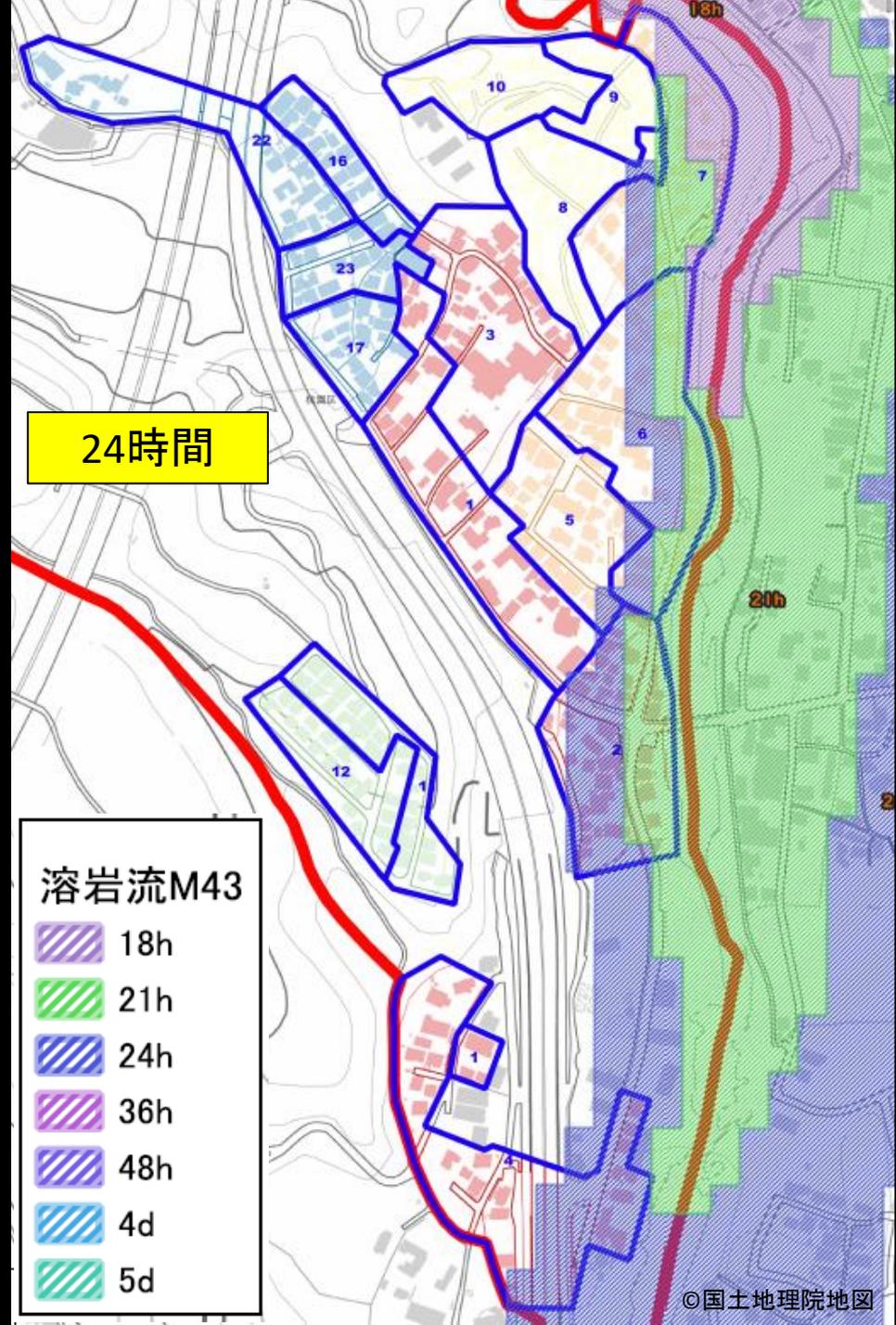
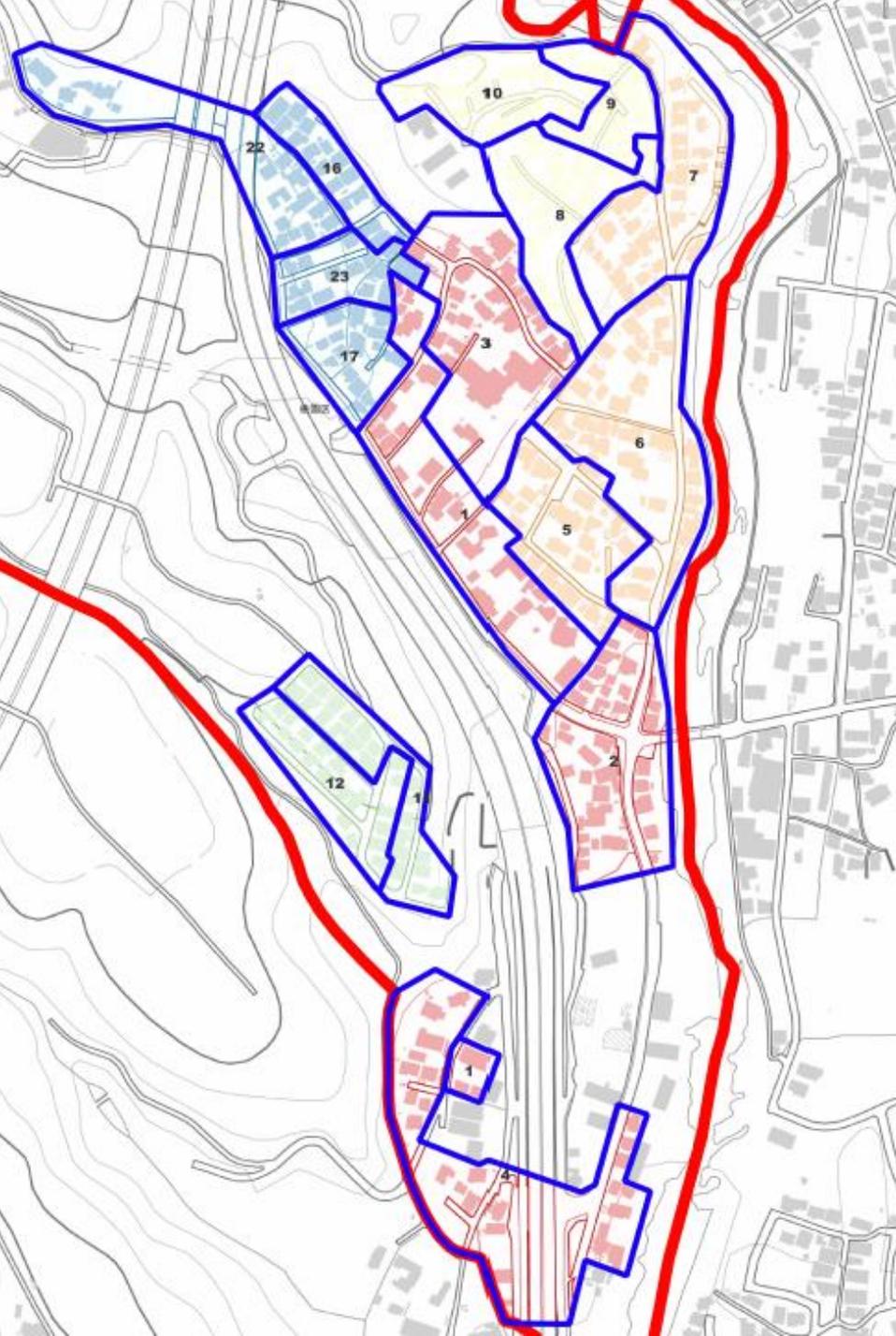
18時間

- 溶岩流M43
-  18h
 -  21h
 -  24h
 -  36h
 -  48h
 -  4d
 -  5d



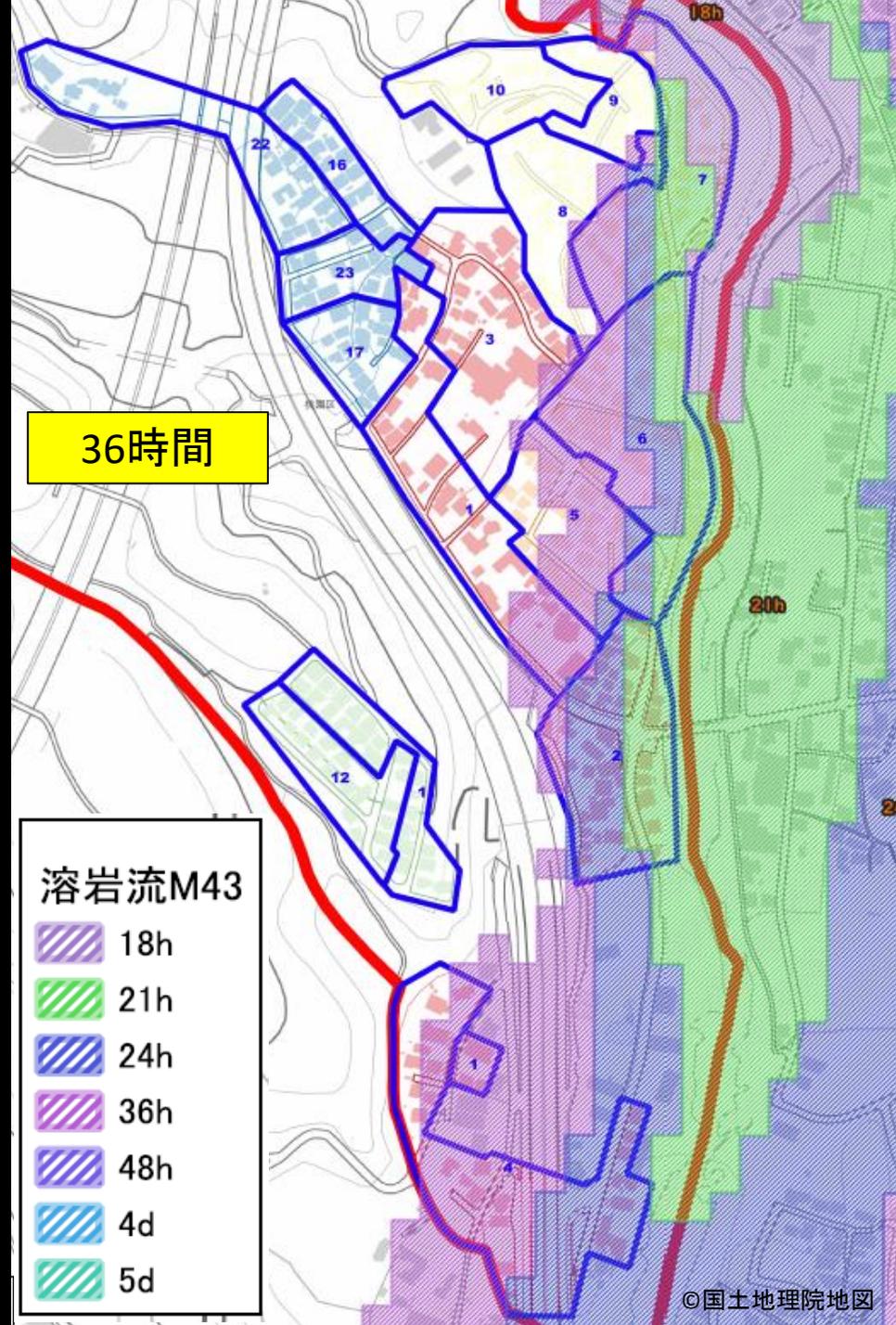
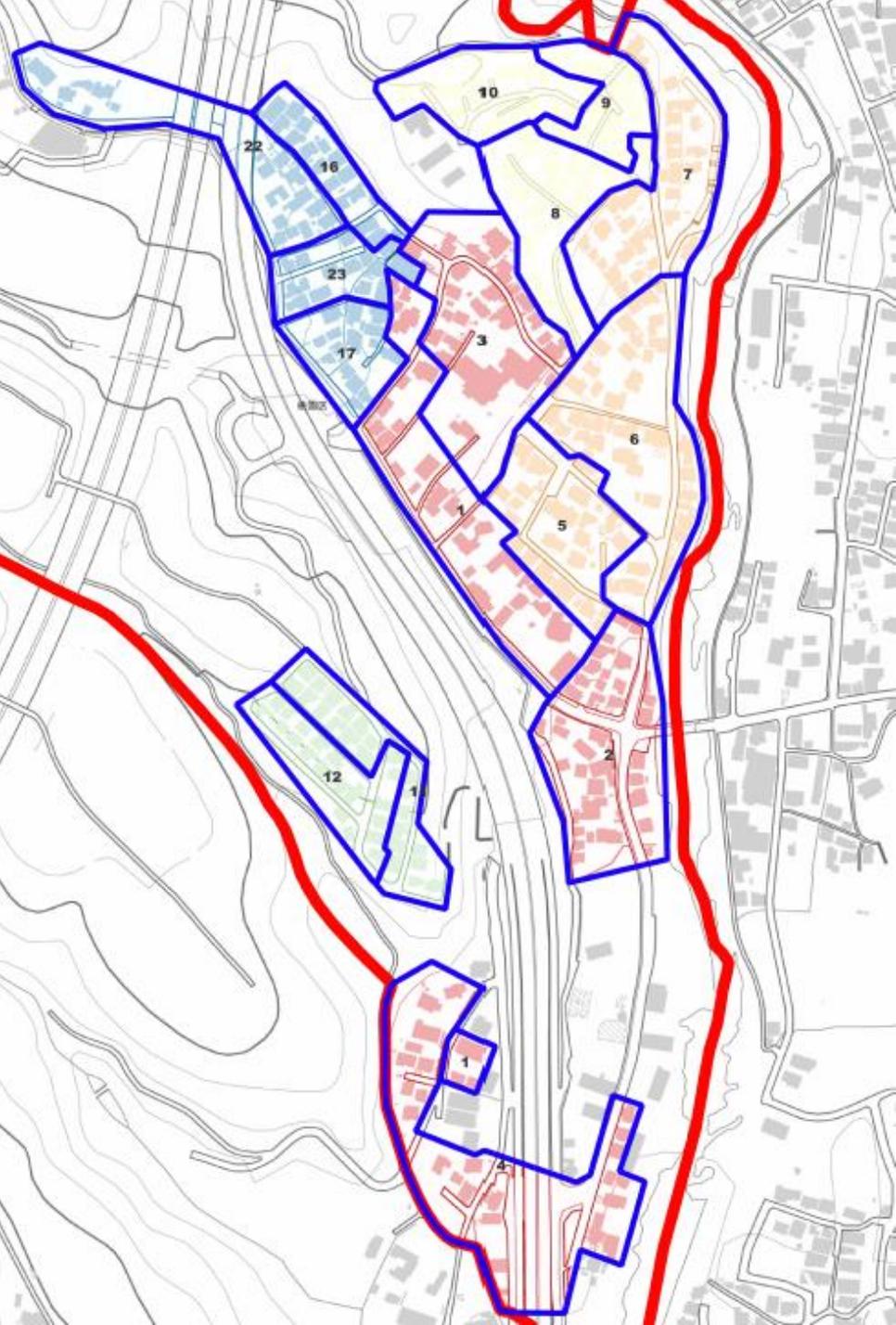
21時間





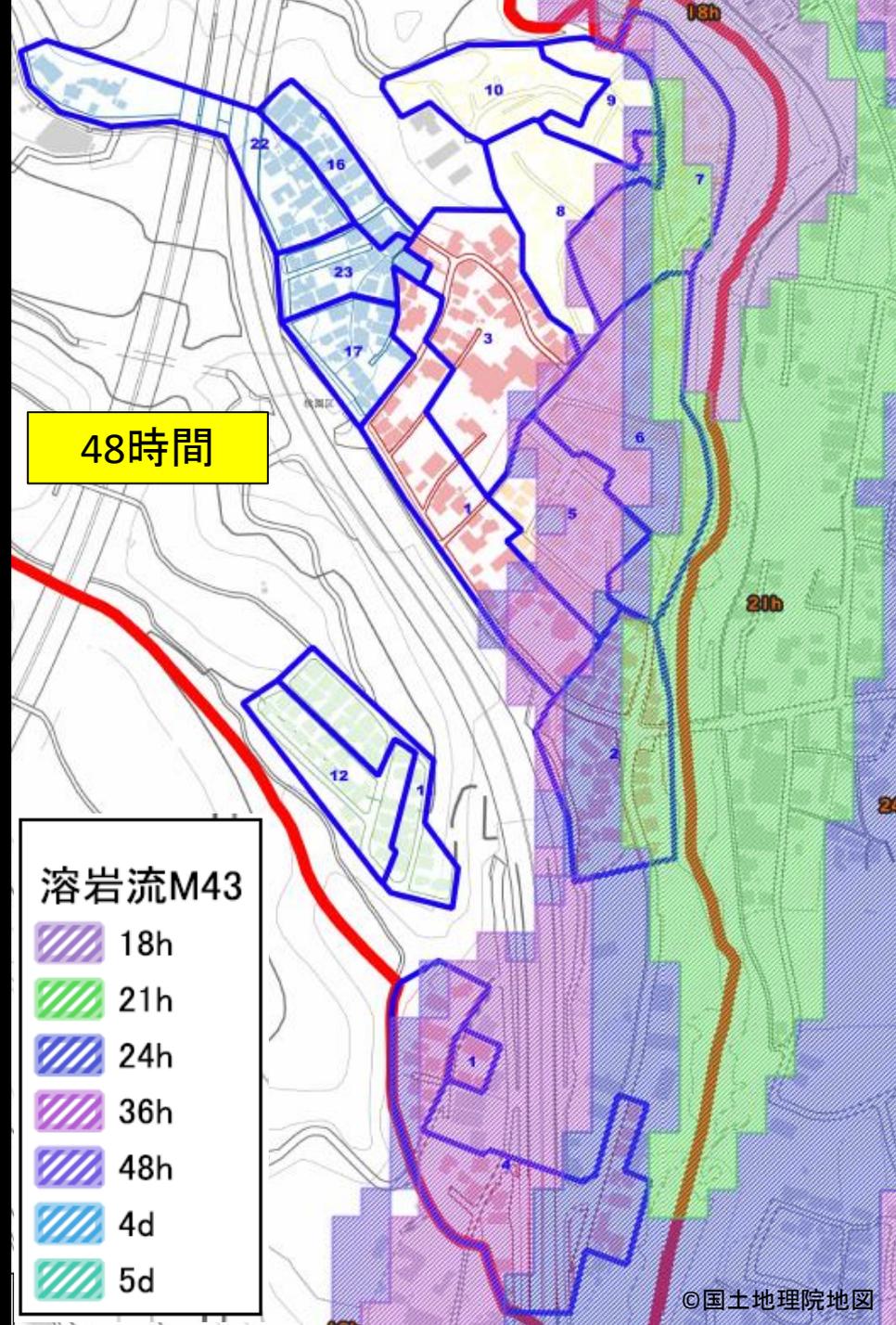
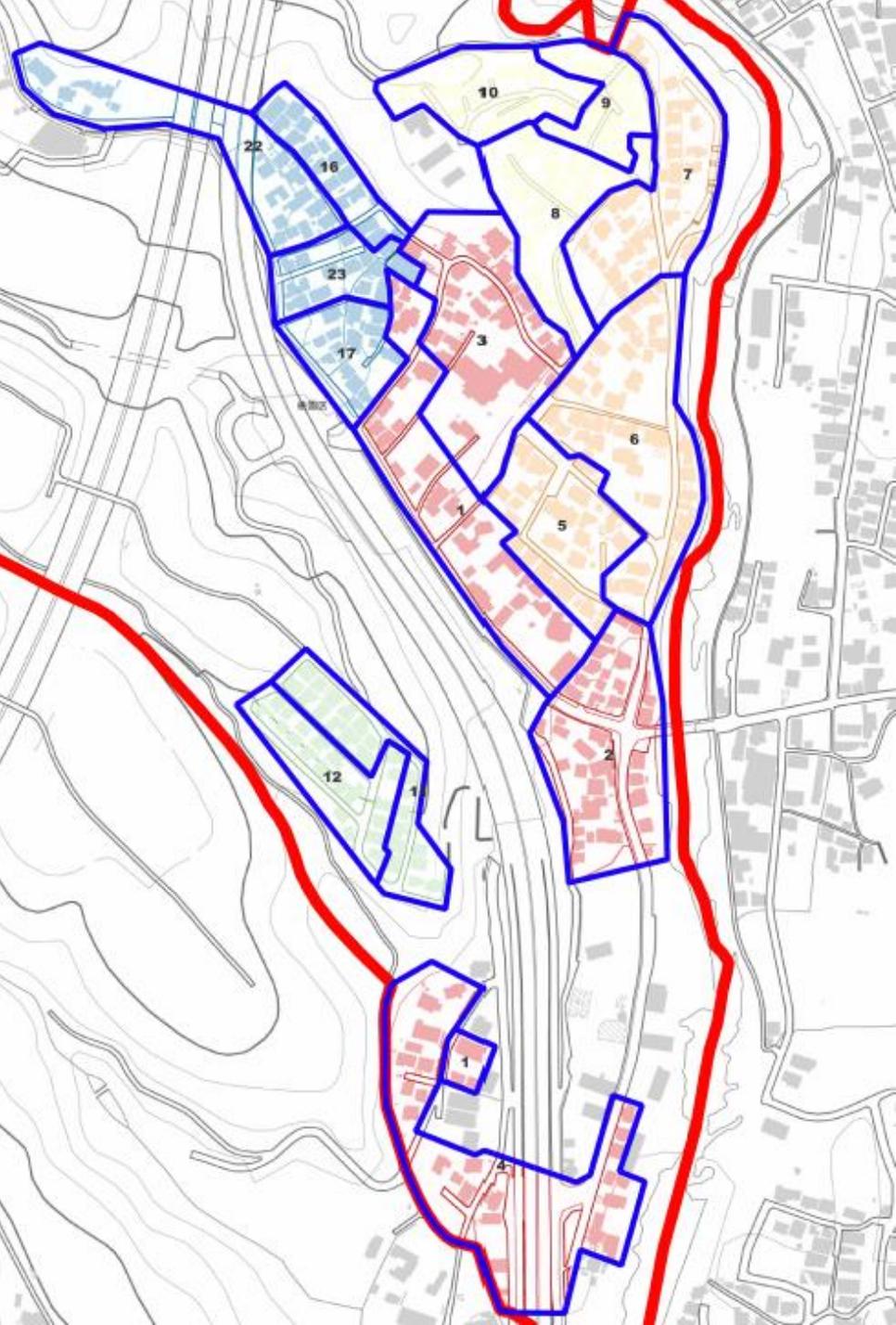
24時間





36時間

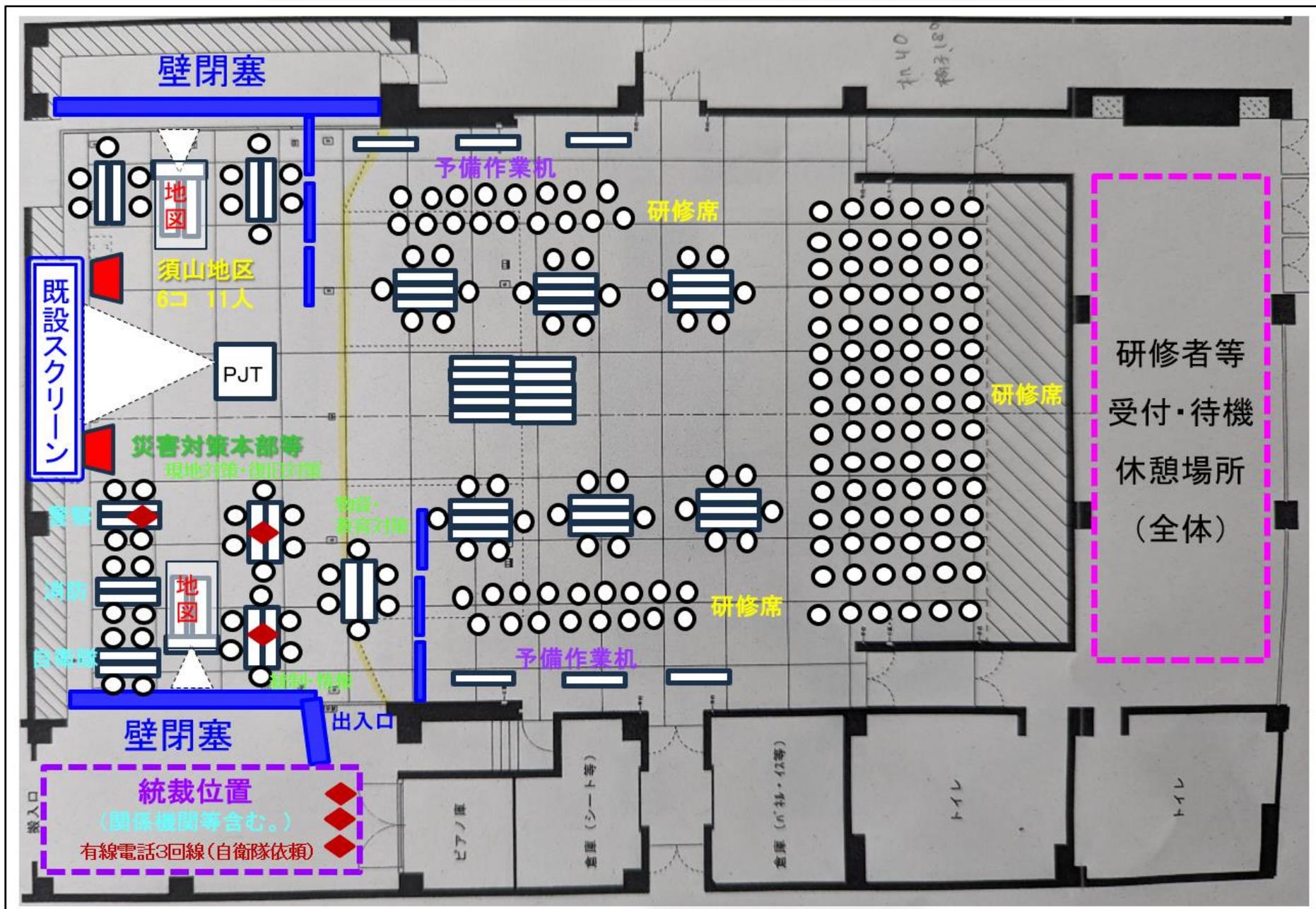




48時間



会場レイアウト (イメージ)



噴火後避難要領 (黄瀬川M43ライン)

考え方

- ◎ 当初、河川沿いに避難地域を絞り「市内避難」しつつ、並行的に多数の「広域避難」を実施
 - ※ 市民文化センター以北は、迅速に河川沿いを流下、市街地多くの地域に約3.5日間で溶岩流が流下の特性
- ★ 前提: 静岡地方気象台・県危機情報課・御殿場市からの情報で、M43ラインと概定(市堺北側に約6hで流下)
- 1 市民文化センター以北は、溶岩流の対応(対象)地域を絞り、「一時退避」実施後、河川沿いの流下状況を踏まえて、避難情報細部を発令(指示)
 - ① 要支援者は、深良地区は深良中、富岡地区は富岡支所又は富岡第1小へ車両で退避
 - ② 健常者は、近傍(最寄り)の自治会区(集会所等)へ車両避難又は、道路の状況に応じて徒歩避難
- 2 市民文化センター以南地域は、北側地域から順に溶岩流未流下地域指定避難所(深良・富岡・東地区)へ逐次避難させるのと並行し、市外(広域)避難も実施する



訓練時程

訓練時程		8:45	8:55	9:05	9:10	9:15	9:40	10:10	10:30	1045頃	11:00頃	12:00																					
全般	訓練の流れ等	訓練開始		噴火前避難			噴火後避難 M43ライン																										
	富士山噴火状況 (気象庁情報等)	噴火警戒レベル3 発表予告 (ホットライン) 随時情報発表		噴火警戒レベル3 火山灰予報等		噴火警戒レベル4		レベル5		噴火速報		火口位置概定 パターンC																					
警戒災害対策本部 市役所	本部各部署	訓練・状況開始		警戒本部 現地調整所設置		十里木別荘一次避難対象エリア避難指示発令 十里木高原二次避難対象エリア高齢者等避難(仮称)発令 放送		災害対策本部設置		須山地区全域避難指示(下和田区)高齢者等避難発令		噴火情報等の収集		噴火後 1h	3h	5h	6h	8h	9h	10h	12h	15h	18h	22h 以降									
	流下ラインの決定													噴火情報・避難情報等の市民への周知																			
	現地調整所主体の避難支援													時系列に沿った避難指示の発令等																			
	治安維持、誘導 交通規制(誘導)													市内避難所の開設・運営																			
防災関係機関	警察	市・隣接市町と連携した市外(広域)避難調整・処置																															
	消防	防災関係機関等との連携による避難支援																															
	自衛隊	治安維持・避難誘導、交通規制(誘導)																															
住民(自治組織・自主防)	要支援者	救急業務、避難誘導・支援																															
	一般住民	逃げ遅れ避難民の救出等																															
その他区		噴火後の避難要領の研修 (状況により、市外避難準備等の検討)																															
要支援者		噴火警戒レベル引き上げに伴う噴火前避難活動の研修 (※ 訓練準備)																															
一般住民		11 コ区 203 人		①		3 コ区 52 人		②		6 コ区 123 人		③		5 コ区 114 人		④		15 コ区 189 人		2 コ区 39 人													
要支援者		① 3h 6コ区 3187人		② 5h 5コ区 2127人		③ 8h 3コ区 1646人		④ 10h 2コ区 150人		⑤ 12h 4コ区 3279人		⑥ 15h 5コ区 4082人		15コ区 5398人		2コ区 582人		市外		市外													
一般住民		① 3h 6コ区 3187人		② 5h 5コ区 2127人		③ 8h 3コ区 1646人		④ 10h 2コ区 150人		⑤ 12h 4コ区 3279人		⑥ 15h 5コ区 4082人		15コ区 5398人		2コ区 582人		市外		市外													

約1h

演習後研究会

休憩・配置換え

訓練状況終了

- 1 質疑応答
※課題明確化
(約15分)
- 2 対応事項の
検討等
(約15分)
- 3 対象区域絞
り込み・区内
細分化
(約10分)
- 4 須山ライン
の説明
(約10分)
- 5 訓練まとめ
(約10分)

質疑応答

**コミュニティ（共助）活動の必要性について
（避難所開設・運営の体制等）**

裾野市の災害対応（基準）

災害発生

小グループ毎
の安否確認

小グループ毎
の安否確認

小グループ毎
の安否確認

の安否確認

の安否確認

の安否確認

(小グループとは、
各區で決めている
班・組・最寄等の
ことです。)

〇〇區災害対策本部

区 長

自主防災会長

各役員等による活動

- 情報班
- 避難・誘導班
- 救出・救助班
- 消火班
- 災害時要配慮者班
- ・
- ・
- ・

(地震以外の災害
では、直接連絡)

市災害対策本部
992-1111 (代表)
(危機管理課：995-1817)

デジタル防災行政無線
(半固定、車載、携帯)

(地震の場合)

自主防会長、区担当者等
が広域避難地へ赴き、
広域避難地班長に報告
「情報連絡票」

広域避難地 (11カ所)

広域避難地班長以下数名の職員
が、派遣され各地区の情報を市
災対本部に報告する
必要に応じ避難所の開設、救
護所の開設等を行う・

裾野市の避難の流れ (基準)

オープンスペース 安全確保・安否確認



〇〇小学校グラウンド

災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

自宅の損壊がない住民

移動

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

③と④の順序は、
当時の状況による

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等で打ち合わせ

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

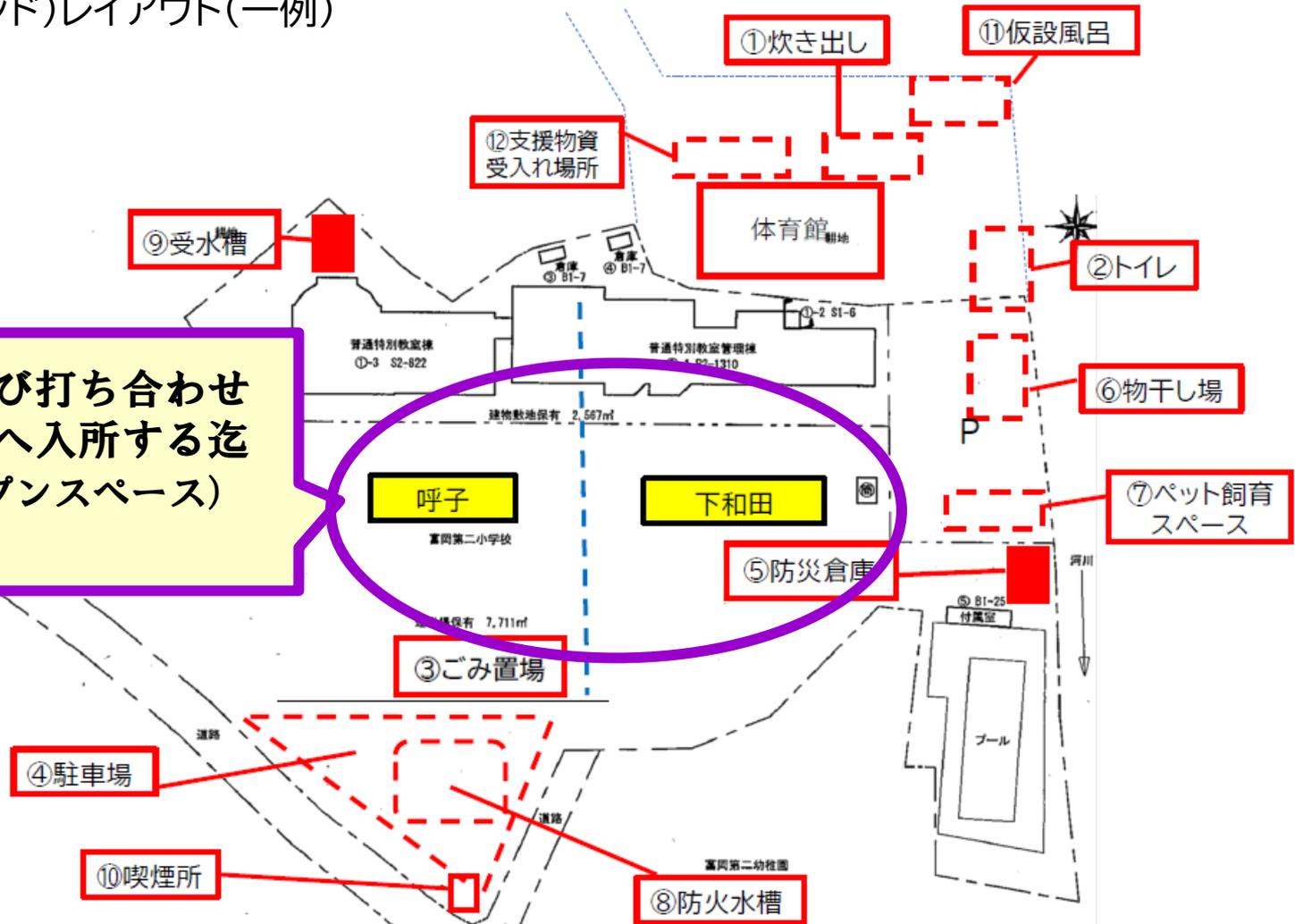
広域避難地への避難

- ★ 広域避難地班へ避難後、市職員（広域避難地班）とコンタクト
→ 情報共有 区（自主防）の状況 ⇔ 市の状況（体制）等

広域避難地(グラウンド)レイアウト(一例)

富岡第二小学校

応急危険度判定及び打ち合わせが終了し、避難所へ入所する迄はグラウンド（オープンスペース）で待機



災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

移動

自宅の損壊がない住民

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

③と④の順序は、
当時の状況による

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等で打ち合わせ

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

建物点検（応急危険度判定）

耐震化ランクが最も高い「I a」の建物は、**応急危険度判定士の資格を保有する市職員等を派遣しての判定は実施しない。**

※ 施設管理者である**教職員**、あるいは派遣された**広域避難地班要員の市職員**が、**建物外部及び内部の破損状況等を確認し、使用の可否を判定する。**

→ 点検（判定）結果は、**広域避難地班を通じ、対策本部へ報告**

◎ 耐震化ランクが「I a」でない施設には、**応急危険度判定士資格保有者を派遣する。**（千福が丘小学校、向田小学校、須山支所等）



災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

移動

自宅の損壊がない住民

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等 打ち合わせ

③と④の順序は、
当時の状況による

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

避難所開設のための打ち合わせ

【参加者】

- ① 自主防災会役員(区長・自主防災会長等)
- ② 施設管理者(学校職員:校長先生・教頭先生等)
- ③ 市職員(広域避難地班)

※ このイメージ図は、平時の実施状況



◆◆ 主な打ち合わせ内容(一例) ◆◆

1 それぞれの状況報告(情報共有)

- 自主防→安否確認状況、避難者数(在宅避難者数含)及び異状の有無、要配慮者の状況等、緊急を要する市への要望等
- 施設管理者→学校施設の被害状況、対応可能な職員等、(生徒の状況)、応急危険度判定
- 市職員→市の体制(対策本部設置等)及び被害(ライフライン)状況、対応する職員状況

2 避難所開設の準備(要領の一例)

- 避難してきている要配慮者の処置 ※ 使用頻度の低い教室等への搬送
- 避難民の受け入れ(県防災アプリ活用による受付) ※ 職員・住民
- 活動可能な住民を区分し、開設準備
 - ① 居住スペースの割り振り(通路設置・段ボール間仕切り)グループ
 - ② 簡易トイレ設置グループ
 - ③ 発電機設置グループ

3 避難所への入所(室)要領の説明

災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

自宅の損壊がない住民

移動

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等で打ち合わせ

③と④の順序は、
当時の状況による

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

災害発生から避難所開設までの流れ

災害発生

① 一時避難所(地区集会所・公民館等)に避難・集合

自宅が全壊・焼失した住民

自宅の損壊がない住民

移動

帰宅

② 広域避難地に避難(自主防災会で誘導)

③ 指定避難所(体育館等)の建物点検 ※ 応急危険度判定

④ 広域避難地班員・施設管理者・自主防災会役員等で打ち合わせ

③と④の順序は、
当時の状況による

⑤ 避難所開設準備

⑥ 居住スペースの割り振り

⑦ 要配慮者の入室を優先

総合受付実施
入室

⑧ 自主防災会(区)単位で一般避難者の入室

⑨ 避難者カードの配布・記入

⑩ 避難所運営本部設置・その他必要施設の設置・設営

★ 避難所生活開始

避難所運営（開設）の主な役割分担

自主防災会 (組織)

- 避難所の立ち上げを主導
- 避難者や地域住民への情報伝達
- 居住組(在宅避難者)の把握及び支援
- 地域全体の防火・救助・防犯活動

決して
お客様では
ありません！

施設管理者

- 広域避難地班職員と連携した施設・設備の被害状況や安全性の確認
- 学校や公共施設の管理
- 避難所の運営支援(主に施設・備品)
- 避難所運営組織から要請のあった事案について調整

広域避難地班 職員(市職員)

- (施設管理者と協力した)避難所の開設・閉鎖
- 避難所の立ち上げ支援
- 避難所の運営支援
- 市災害対策本部への報告・要請
- 避難所の避難者及び居住組(在宅避難者)の取り纏めと情報提供

避難所運営本部の組織 (一例)

◎ 各班長は、自主防災会の役員、避難者等

※ 女性の選出も検討

施設管理者

学校長、公共施設施設管理者

本部長

自主防災会の会長・役員、
避難者等

広域避難地班長

市職員

副本部長

自主防災会の会長・役員、
避難者等

※ できれば女性を1名以上選出

副本部長

① **総務班(長)**

記録係・調整係

② **避難者管理班(長)**

受付係・配達物係

③ **情報班(長)**

情報設備係・情報収集係・
情報発信係

④ **食糧・物資班(長)**

給仕設備係・炊出し係・
配食係

⑤ **施設管理班(長)**

見回り係、安全管理係・
物資管理係・相談員

⑥ **保健・衛生班(長)**

衛生設備係・衛生係・
医療係・生活支援係・
介護係

【居住組】

第1組長

第2組長

第3組長

共助の重要性

【過去災害からの教訓】

- ◆ 1995年1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災では「公助」である消防、警察、自衛隊などの救助隊による救出よりも、多くの方が自力や家族、隣人等による「自助・共助」で救出された調査結果

⇒ 阪神・淡路大震災では地域住民が救出の主役だった。

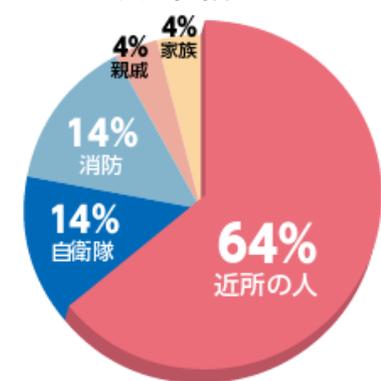
- ◇ 人命救助活動について聞き取り調査をした結果で、「近所の人」「親戚」「家族」が約7割を占めた。被災者の生死を分けるのは、災害発生後72時間といわれており、この限られた時間内に、救助隊の到着を待たずに被災者をすくうことができるのは、その場に居合わせた私たち自身です。

- ◆ 2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災では、地震や津波によって多くの死者・行方不明者が発生、市町の行政機能が麻痺し公助の限界が見られた中、各処において地域コミュニティによる①倒壊した自宅から共助によって救出、②助け合って避難、③助け合って避難所の運営、④助け合って在宅避難、等の例が多く見られた。

⇒ 東日本大震災後、「社会の絆」を重視する意識が高まった。

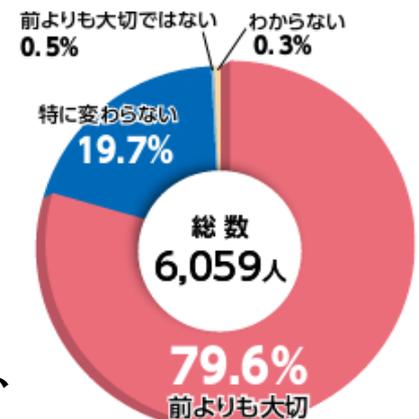
- ◇ 内閣府の「社会意識も関する世論調査」によると、東日本大震災後、社会の結び付きを「前よりも大切だと思うようになった。」という人は、全体の約8割を占めました。

■ 阪神・淡路大震災で人命救助をした人の内訳



([1995年兵庫県南部地震による人的被害(その5)神戸市東灘区における人命救助活動に関する聞き取り調査]宮野道雄(大阪市大)他、1996年日本建築学会大会学術講演梗概集)

■ 震災前と比べた、社会における結び付きの意識変化



共助の重要性

- ◎ このような地域コミュニティにおける共助の働きを受け、**「災害対策基本法」が改正**
 - 阪神・淡路大震災での教訓反映 ⇒ 1995年改正「ボランティアに関する規定が追加」
 - 東日本大震災での教訓反映 ⇒ 2012年改正「教訓伝承、防災教育の強化等に関する規定」
 - **「地区防災計画制度」が2014年（H26年度）4月施行、「地区防災計画ガイドライン」公表**
- ◎ H26年～H28年度に**地域コミュニティの活性化**に向けて、**「地区防災計画モデル事業」**が行われ、**成果と課題を反映**
 - ⇒ **令和2年「地区防災計画の素案作成支援ガイド」（自治体職員向け）**

裾野市の共助の現状

- ◆ 86区の自主防災会 ⇒ **防災に関する取組みに格差** ※ 計画作成、防災訓練、資機材備蓄等
- ★ **いつ災害が発生してもおかしくはない（蓋然性が高い）状況**
 - 南海トラフ地震 : M8～9クラスの地震発生確率 **30年以内で70～80%**
 - 富士山噴火 : **宝永噴火1707年から317年経過**

◎ **災害発生時に対応できる準備が必要** ★ **特に、初動が重要**

地区防災計画作成の作成

- ◇ **令和3年度から、市として「地区防災計画」作成を奨励**
- ◇ 地区防災計画作成要領は様々だが、**まずは作成してみる事が重要！**
 - ⇒ **災害発生時の初動に焦点を当てて簡潔に作成**
 - ① **定型に当てはめて作成（フォーマット的な定型を市で準備）**
 - ② **危機管理課職員動員（区毎の担当を決め、作成に関する支援・助言等を実施）**
- ★ **既存計画を保有する自主防災会は見直し機会として活用**
- ★ 作成後、**逐次内容を見直し、掘り下げ、拡充（深化）させる。**
 - 本来は、**平常時・災害警戒時・復旧・復興時の各段階毎に詳細に作成するもの。**

地区防災計画作成状況

【作成・保有自主防災会】

54区／86区(十里木含む。) 令和6年4月1日現在

1	佐野本宿区
2	佐野若狭区
3	佐野二区
4	大畑区
5	上町区
6	緑町区
7	南町区
8	堰原区
9	水窪区
10	公文名一区
11	公文名四区
12	中丸上区
13	滝頭区
14	本茶区
15	道上区
16	鈴原区
17	青葉台区
18	富士見台区

19	麦塚区
20	東町区
21	町震一区
22	町震二区
23	南堀区
24	和市区
25	遠道原区
26	切久保区
27	上原区
28	上原団地区
29	原区
30	上須区
31	深良新田区
32	岩波区
33	御宿平山区
34	御宿新田区
35	御宿坂上区
36	御宿入谷区

37	上城区
38	中村区
39	中里区
40	森脇団地区
41	上ヶ田区
42	今里区
43	下和田区
44	呼子区
45	千福が丘区
46	千福南区
47	須山一区
48	須山二区
49	須山三区
50	須山四区
51	二ツ屋1区
52	二ツ屋2区
53	トヨタ区
54	須山6区

質疑応答

【作成・保有自主防災会】 54区／86区（十里木含む。） 令和6年4月1日現在

★ 未作成の自主防災会は、下記31区（十里木）である。

地区	区(自主防)	担任
東	久根	齊藤係長
東	公文名2	齊藤係長
東	公文名3	齊藤係長
東	公文名5	齊藤係長
東	稲荷アルミ	齊藤係長
東	中丸中	齊藤係長
東	中丸下	齊藤係長
東	天理町	服部課長
東	峰下市の瀬	田代主査
東	茶畑団地	田代主査
東	和泉	田代主査
東	新道	田代主査
東	本通り	田代主査
東	日の出元町	田代主査
東	本村上中	西川主事
東	本村下	西川主事

地区	区(自主防)	担任
西	石脇	源主任
西	佐野上宿	源主任
西	元町	源主任
西	桃園	源主任
西	富沢	源主任
西	伊豆島田	源主任
富岡	千福	中野主事
富岡	御宿上谷	中野主事
富岡	下条	中野主事
富岡	田場沢	中野主事
富岡	金沢	中野主事
富岡	今里上	中野主事
富岡	矢崎	西川主事
富岡	御宿台	西川主事
深良	舞台団地	西川主事
須山	須山5区(十里木別荘地)	調整監

令和6年度富士山火山避難図上演習準備の業務予定

		4月	5月	6月	7月	8月以降
全般	主要業務			2(日) 水防・土砂災害防災訓練(桃園) ◆桃園区を活用した区内境界の検証・プレ等 ※訓練研究会での参加区民への災害対象区域の説明 ----- 関係防災機関等との調整(打ち合わせ)・現地確認等	中旬 ★ <u>県情報伝達訓練(市主催避難訓練)</u> ※ <u>避難促進施設</u> ----- 調整会議開催	20(土) 富士山火山避難図上演習 ----- 11~12月 協議会主催図上訓練 ----- 2月中旬 1(日) 防災会議 ----- 総合防災訓練
	自主防災会	市防災 24(水) 全般 年度当初総会 ◆ 演習開催・準備案内(区内境界等)	14(火) 水防・土砂災害 #1勉強会 ◆ 演習準備細部説明石脇区をモデルとした作業の完成体イメージを説明	8(土) 防災交流会 ◆ <u>区長</u> 等に対する演習開催の説明	富士山 25(火) 火山災害 #2勉強会 ◆ 演習準備・演習実施要領の説明等 ----- 各自主防との個別調整等	10~12月 地域防災訓練
準備・成果等	準備要領	① 各区毎の区内細分化の <u>作業用紙を配布</u> (各区配布資料として)	① 石脇区モデルのイメージ資料(データ)準備 ② 4/24総会時に各区に依頼した <u>作業用紙回収</u> ※ <u>交付USBの回収</u>	① 演習概要説明資料(データ)準備	① 各区細分化と溶岩流の流下データが入った <u>交付USBの返納</u>	検討事項:内閣府訓練支援受け ----- 【演習目標】 1 富士山火山噴火における噴火前~噴火後の避難要領・流れについて認識・イメージアップさせる。 ① 各区(自主防災会) ② 防災関係機関等を含む災害対策本部 2 地区防災計画策定奨励合わせて行政区内細分化・データ化の整備・促進
	成果目標等	◇ 自主防災会会長への <u>演習開催の認識付与</u> 及び <u>作業用紙の配布</u> (不参加区等へは送付)	◇ 自主防災会会長に作成すべき作業の完成体イメージ等の認識付与 ◇ 依頼した作業用紙全区分の回収(未回収区等への連絡・別途回収)	◇ 区長等への演習開催の認識付与と作業用紙回収及び演習参加等の協力依頼	◇ 各区への区内細分化データ等の付与 ◇ 演習内容・準備要領の認識付与	◆ <u>県情報伝達訓練(市主催避難訓練)</u> ※ <u>特に、新たな避難促進施設の参加を促す。</u>

令和6年度防災訓練等に関する主要業務予定

	～4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4四半期	
全般	24 自主防総会	水防月間	2 全国土砂災害 防災訓練	初～中旬 富士山火山防災 県情報伝達訓練	20 自主防役員訓練会	8月下旬～9月初旬 裾野市総合防災訓練	1 県総合防災訓練 (伊東・熱海)	19・20 フェスタすその 国民保護会議	中旬 防災の集い (日時・講師検討)	1 県地域防災訓練	2月中旬 防災会議 1月中旬 県大規模図上訓練
本部運営 (情報伝達)	職員招集(メール・電話)訓練	4/8～5/10 班練成訓練 期間(設定)	6月上～中旬 #1情報伝達訓練		状況により、 #2情報伝達訓練					職員招集(メール等)訓練	
本部 運営		広域避難地班要員訓練 (倉庫点検・応急危険度判定訓練含)		20 富士山 火山避難 図上 #1訓練	8月下旬 #2訓練					システム導入訓練	
総合 防災 訓練			2 水防・土砂災害訓練 (桃園区)			1 平松大区(東町他5区) (大規模震災想定) ※ペット等配慮					
医療救護							救護所訓練		遺体安置所訓練		
消防団							下旬の土・日 土壌積み訓練				
へり誘導						31 県防災ヘリ支援 #1へり誘導訓練 消防団員対象 (場所検討中)				1 屋自ヘリ支援 #2へり誘導訓練 住民対象 (孤立予想地域)	
地区							「食物アレルギーへの配慮」検討 ※年間を通じ(機会ある毎に)実施				
地域 防災 訓練									10月～12/3の間 地区防災訓練(自主防計画) ※所属長等の現地確認・激励		
富士山 火山 防災	学校安全総合 支援事業協力			7月頃～ 小学校防災授業	20 富士山 火山避難 図上 #1訓練	2 富岡地区学校 引き渡し訓練	19・20 フェスタすその活用 市民への周知啓発 30(AM) 富岡中防災授業 (4h:1年生対象)		協議会主催 図上訓練参加	避難基本計画策定:計画修正・深化	
国民 保護		GW後 課内訓練(図上)							10月～11月頃 国民保護会議	警察との打ち合わせ(現地確認)	

避難図上演習準備業務予定 (案)

曜日		5月		6月						7月					以降
		23・24	25～31	1～7	8～14	15～21	22～30	1～6	7～15	16～18	19	20			
		木・金	土～金	土～金	土～金	土～金	土～日	月～土	日～月	火～木	金	土			
全般	行事等	本日 #1打合わせ	27 現地確認調整 29 市長レク 31 一橋大学対応	2 水防・土砂訓練 5 広域避難調整	8 防災交流会 9 総合防災説明	14 防災協定調整 17-18 地震体験車 20 富中防災授業	22 #1実践委員会 25 自主防勉強会 27 地震体験車	1 庁議	8 地震体験車	10～12 2市1町 防災会議	17 西東京市行政 視察対応	AM 県情報伝達 PM 促進施設説明会	富士山火山避難図上演習		
	訓練準備	<input type="checkbox"/> 参加規模・要領の調整 <input type="checkbox"/> 基盤の整備、演習大枠の決定		<input type="checkbox"/> 実施計画の作成 <input type="checkbox"/> 区長を含む市民への認識統一		<input type="checkbox"/> 実施計画完成・発簡 <input type="checkbox"/> 参加要領の認識統一		<input type="checkbox"/> 会場準備 <input type="checkbox"/> 訓練予行等				PM 訓練準備	富士山火山避難図上演習		
住民 (自主防災会)		区内細分化・デジタル化依頼、USB回収		防災交流会 ★区長説明		7/20演習の要領を説明 勉強会 ★資料データ配布						PM 訓練準備	富士山火山避難図上演習		
市役所	他課	参加者数調整		参加者数決定		実施計画説明 (状況付与計画を除く。) ★防災関係機関との状況付与計画策定 #1調整会議		参加要領説明 (庁議)		参加要領説明 (参加者対象)		伝達訓練 PM 説明会	富士山火山避難図上演習		
	危機管理	本日 #1打合わせ	訓練実施(統裁)計画概成				状況付与(統裁)計画策定 に関する支援(助言)受け		状況付与計画含む計画完成・発簡 防災関係機関等との#1調整会議		演習予行(リハ) 最終打合わせ		打合わせ予備	富士山火山避難図上演習	
支援受	トヨタ	区内細分化・デジタル化作業				状況付与(統裁)計画策定 に関する支援(助言)受け		状況により、 #2防災関係機関との調整会議 時実施		#3打合わせ		打合わせ予備	富士山火山避難図上演習		
	内閣府											打合わせ予備	富士山火山避難図上演習		
防災関係機関	警察											打合わせ予備	富士山火山避難図上演習		
	消防	参加規模・要領等の調整 (参加依頼・申請実施)				実施計画説明 状況付与計画作成 ★#1調整会議開催						打合わせ予備	富士山火山避難図上演習		
	自衛隊									#2調整会議 (最終確認・調整)		打合わせ予備	富士山火山避難図上演習		
その他	東京電力											打合わせ予備	富士山火山避難図上演習		
	建設業協会	参加要領等の調整										打合わせ予備	富士山火山避難図上演習		

成果の取り纏め等
 撤収・移動



富士山

裾野市の地域の特徴

- 人口：約5万1千人 (16位/35市町村)
- 面積：138.12km² (17位/35市町村)
- 標高：78.5m～2,169m **標高差大**
- ◆ 「健康文化都市」宣言 (H7.12)
- ◆ 「平和都市」宣言 (H27.12)
- ◆ 「財政非常事態宣言」 (R3.2)
- ◆ トヨタ未来都市オープンシティ (R3.2)

宝永火口

富士高原帯

★ 令和2年6月30日～7月1日の大雨は、累加雨量が約440mmで須山地区が県内1位

★ 令和3年7月1日～4日の累加雨量は、富士山側で800mm超え1990年代観測記録更新

★ 今年、5月7日～8日の大雨では、累加雨量414mmで県内2位、時間雨量45mm/hで須山地区が県内1位

富士山麓帯

愛鷹山地帯

箱根山

箱根山麓帯

佐野川

黄瀬川低地帯

大場川

新東名

東名

黄瀬川

南寄りの風

最高気温 (8月)
 平坦部 : 30.8℃
 須山地区 : 28.7℃ □ 2.1℃差

最低気温
 平坦部 : -2.2℃
 須山地区 : -9.0℃ □ 6.8℃差

年間平均気温
 平坦部 : 14～15℃

降水量 : 年間平均で約2,000mm
 多いのは6月～9月迄の4カ月間

鷹山

箱根山

箱根山

裾野市

令和3年7月3日（土）08:00頃
の黄瀬川（花菌橋）付近の状況



要配慮者利用施設「うぐいす」
からの河川状況



富士山噴火警戒レベル判定基準

富士山の噴火警戒レベル判定基準		令和3年6月4日現在
レベル	当該レベルへの引上げの基準	当該レベルからの引下げの基準
5	<p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が切迫】 次のいずれかが観測された場合</p> <p>①火山活動が高まっている中で、「体に感じる地震を含む顕著な地震が頻発」しつつ、「地殻変動量が加速」</p> <p>②居住地域から離れた場所で小規模の噴火が発生した後、さらに噴火活動が高まるなど居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が切迫</p> <hr/> <p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生】</p> <p>③噴火が発生(居住地域から離れた場所での小規模の噴火と判断できる場合を除く)</p>	<p>(噴火が発生した場合)</p> <p>噴火活動の推移、噴出物の影響範囲、観測データを評価し、居住地域に影響する噴火発生の可能性がなくなったと判断した段階でレベル3以下に引き下げる。</p> <p>(噴火には至らなかった場合)</p> <p>左記の現象がみられなくなり、火山活動の低下が認められ、居住地域に影響する噴火発生の可能性がなくなったと判断した段階でレベル3以下に引き下げる。</p>
4	<p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の可能性】</p> <p>①レベル3の基準①を満たす現象が観測されている中で、さらに「浅部の火山性地震の急増や規模増大」あるいは「浅部での膨張を示す顕著な地殻変動を観測(レベル3よりも規模大)」</p> <p>②居住地域から離れた場所で小規模の噴火が発生(ただし、噴火発生を経てレベル4・5からレベル3以下に引き下げた後に、一連の活動の範囲内で小規模の噴火が発生し、噴火活動の活発化が見られない場合は、レベルを据え置く。)</p>	同上
3	<p>【火山活動が高まっており警戒が必要】</p> <p>① 次の現象が複数観測された場合</p> <p>A) 浅部の火山性地震の増加(24時間で100回程度以上、あるいは1時間あたり10回程度以上)</p> <p>B) 浅部での低周波地震、火山性微動が複数回発生</p> <p>C) 浅部での地殻変動を観測</p> <p>D) 明瞭な表面現象(噴気や地熱域の出現、地割れ・隆起・陥没などの地変)</p> <p>② 浅部の火山性地震が急増するなど、①のA~Dのいずれか1つの基準を大幅に上回る現象が観測された場合</p>	左記の現象について、活発化の傾向が見られなくなった場合には、レベル2又はレベル1に引き下げる。
2	<p>・富士山では、噴火の発生が予想される火山活動活発化の過程でレベル2は発表しない。</p> <p>・ただし、火山活動が低下する過程などにおいてレベル2を発表する場合がある(予想される噴火による影響範囲が火口周辺に限定され、かつ居住地域から離れている場合)。レベル2を発表する場合は、その際にレベル2からの引下げ基準を明確にする。</p>	